



Fiery IQ Help for Cutsheet printers

© 2025 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2025 年 10 月 23 日

目次

Fiery IQ	7
サポート対象のブラウザーおよびオペレーティングシステム	7
サポートプリントデバイス	8
定義	8
Fiery アカウントログイン情報を使用して Fiery IQ にアクセスする	9
アカウント設定のアップデート	10
Fiery Dashboard	10
デバイスの表示名を変更する	11
Fiery IQ でのアクティブなアプリケーションの変更	12
会社アカウントの切り替え	12
 Fiery Admin console	 13
会社アカウントに新しいユーザーを追加する	13
会社アカウントに新しいユーザーグループを追加する	13
グループにユーザーを追加する	14
ユーザーロールの変更	14
ユーザーの削除	15
新しいシフトの追加	15
シフトの削除	15
シフトの編集	16
デバイスの詳細を表示する	16
デバイスのトラッキング停止	16
デバイスのトラッキング開始	17
デバイスの削除	17
デバイスコレクションの作成	17
会社設定の指定	18
プリンターの Fiery IQ アプリケーションライセンス	18
ライセンスの表示	19
新規ライセンスを追加する	19
ライセンスを割り当て	19
ライセンスの削除	20
SFTP アカウントの構成	20
設定用の SFTP アカウントを追加する	20
設定用の SFTP アカウントを編集する	21
設定用の SFTP アカウントを削除する	22

Fiery Cloud Connector	23
サポートプリントデバイス	23
Fiery サーバーに Fiery Cloud Connector をインストール	23
Fiery Command WorkStation v7.0 以降	23
Fiery Command WorkStation v6.8 または v6.7	23
Fiery Command WorkStation v6.6 以降	24
Fiery Cloud Connector のトラッキング状況	24
プロキシ設定の構成	24
 Fiery ColorGuard	26
サポートプリントデバイス	26
Fiery ColorGuard web アプリケーション	26
サポート対象のブラウザーおよびオペレーティングシステム	27
Fiery ColorGuard でサポートされている測定器	27
Fiery ColorGuard Dashboard	28
検証スケジュールを作成する	34
ユニバーサル検証スケジュールを作成する	35
Fiery Spot Pro からのスポットカラー検証スケジュールの作成	35
再キャリブレーションスケジュールの作成	36
ベンチマーク検証スケジュールを作成する	37
スケジュールを編集する	38
スケジュールを一時停止または再開する	38
検証を今すぐ要求する	39
再キャリブレーションの即時実施要求	39
検証履歴を表示する	39
Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション	39
Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをインストールする	40
Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをインストールする	40
Fiery Command WorkStation v7.0 以降の Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション	41
カラー出力またはスポットカラー出力を検証する	41
FieryMeasure	42
カラー出力の再キャリブレーション	54
Fiery ColorGuard の Fiery Verify	55
最近の検証履歴を表示する	58
再検証	59
失敗した検証	60
Mac コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする	60

Windows コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする	60
Mac コンピューターで Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールする	61
Windows コンピューターで Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールする	61
EFI Go	62
サポートされるモバイルデバイス	62
サポートプリントデバイス	62
デバイス情報の表示	62
デバイスログの表示	63
デバイスの状態の表示	63
ジョブを検索する	63
通知の表示	64
EFI Go で Fiery IQ からログオフ	64
Fiery Manage	65
サポートプリントデバイス	65
同期パッケージの作成	65
同期パッケージのデプロイ	66
コンプライアンスの確認	66
Fiery サーバー設定をダウンロード	66
Fiery Insight	68
対応プリントデバイス	68
ジョブログのダウンロード	68
ジョブログ列の設定	69
ジョブログ列	69
プリンター利用率の表示	72
プリンターを比較する	72
グラフの表示を変更する	73
選択したプリンターの変更	73
シフト変更	73
Fiery Notify	75
サポートプリントデバイス	75
プロダクションブロックイベントに関する警告を有効にする	75
プロダクションレポートの通知を有効にする	75
警告と通知の変更	76
設定レポート	76

設定レポートの列	76
設定レポートの作成	78
設定レポートの編集	79
設定レポートの複製	80
設定レポートの削除	80
警告の無効化	80
 Fiery IQ のトラブルシューティング	 81
登録メールが届きませんでした	81

Fiery IQ

Fiery IQ は、印刷サービスプロバイダーの豊富な web アプリケーションを含むクラウドアプリケーションおよびサービスです。

Fiery IQ アプリケーションスイートの web アプリケーションを使用すると、印刷操作が簡素化され、改善されます。プリンターをリモートで監視することにより、ダウンタイムを短縮し、生産性を最大限に向上させることができます。Fiery IQ は印刷プロダクション分析を提供するので、よりスマートで情報に基づいた意思決定を行うことができます。

既存の Fiery アカウントを使用するか新しい Fiery アカウントを作成して、Fiery IQ にサインインすれば、Fiery IQ クラウドサービスにアクセスできます。詳細は、[Fiery アカウントログイン情報を使用して Fiery IQ にアクセスする](#)（9 ページ）を参照してください。

Fiery IQ には次のクラウドアプリケーションが含まれています。

- **Fiery Dashboard**

その日の主要なプロダクション指標をリアルタイムに把握できます。

- **Fiery Cloud Connector**

Fiery IQ にプリンターを接続します。

- **Fiery ColorGuard**

合理化されたカラー検証プロセスにより、Fiery Driven デバイスで一貫した正確なカラー品質を実現します。

メモ：サブスクリプションで Fiery ColorGuard をアクティベートできます。

- **Fiery Manage**

プリンターをリモートで監視およびトラブルシューティングを行い、プロダクションブロックイベントを特定し、会社の標準操作手順を遵守できます。

メモ：サブスクリプションをお持ちの場合は、Fiery Manage をアクティベートできます。

- **EFI Go**

プリンターの状況や送信されたジョブを確認し、モバイルデバイスで履歴を表示します。

- **Fiery Insight**

正確なプロダクショントラッキングにより、プリンターの稼働率と利益を最大化します。

- **Fiery Notify**

プロダクションレポートの定期配信とプロダクションブロックイベントの警告を有効にします。

サポート対象のブラウザーおよびオペレーティングシステム

クラウドアプリケーションとサービスの Fiery IQ スイートパッケージは、次のブラウザーとオペレーティングシステムをサポートしています。

ブラウザー

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox
- Safari 11 以降

オペレーティングシステム

メモ：Fiery IQ クライアントアプリケーションは、x64 ビットのオペレーティングシステムのみをサポートしています。

- Windows 10 以降
- macOS Catalina 10.15 以降

サポートプリントデバイス

Fiery IQ は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降を実行する Fiery サーバーに接続されたプリンターに対応しています。

定義

下記は本書でよく使用されている用語の定義です。

- 企業またはカスタマーとは、1 つ以上の Fiery IQ アプリケーションを使用するエンティティです。
会社アカウントを作成する際には、会社名、物理アドレス、および会社アカウントの所有者であるデフォルト、少なくとも 1 つのユーザーを指定します。会社の詳細を指定することによって、後で同じ会社アカウントに関連する可能性がある他の個人ユーザーを識別することもできます。
- テナントアカウントは Fiery IQ クラウドを利用する会社ごとに作成されます。
- ユーザーはテナントアカウント内の個人です。ユーザーアカウントを持つ人は、ユーザー権限に関連する一意のログイン名で Fiery IQ にログインします。追加のユーザーアカウントは、テナント管理者の裁量で作成できます。
ユーザー属性には、姓名、会社（ユーザーが属するテナントアカウント）、ユーザーロール、割り当てられたプリンター（個々のプリンターまたはプリンターコレクション）が含まれます。
- Fiery IQ の管理者とは、Fiery IQ 内での管理者権限を有するユーザーのことです。Fiery IQ の管理者ユーザーは、ユーザー、グループ、デバイスおよび会社を管理できます。Fiery IQ の管理者は、テナントアカウント内の他のユーザーに管理者権限を付与できます。

- グループは、テナントアカウントに登録済みのデバイスへのアクセスをユーザーに許可するために使用されます。

Fiery IQ の管理者は、ユーザーが特定のデバイスにアクセスできるように、単一のグループまたは複数のグループに割り当てることができます。

- デバイスとは、Fiery サーバーを介して Fiery IQ クラウドに接続されているプリンターのことです。

Fiery アカウントログイン情報を使用して Fiery IQ にアクセスする

既存の Fiery アカウントを使用するか新しい Fiery アカウントを作成して、Fiery IQ にサインインすれば、Fiery IQ クラウドサービスにアクセスできます。

メモ：新しい Fiery アカウントを作成するには、有効な E メールアドレスが必要です。

Fiery IQ クラウドサービスにアクセスするには、既存の Fiery アカウントを会社に関連付ける必要があります。既存の Fiery アカウントでサインインした場合は、手順 7 (9 ページ) に進み、会社情報をアップデートします。

- 1 ブラウザから、<https://iq.fiery.com> に移動します。

- 2 **サインアップ**をクリックします。

- 3 テキストフィールドに情報を入力します。

メモ：アスタリスクが付いたテキストフィールドは必須です。

- 4 **続行**をクリックします。

Fiery IQ は、6 桁のコードを記載した登録メールをメールアドレスに送信します。

- 5 メールアドレスを確認するには、この 6 桁のコードを入力して**続行**をクリックします。

メモ：確認メールが届かない場合は、スパムや迷惑メールフォルダをチェックしてください。(Fiery IQ の [トラブルシューティング](#) (81 ページ) を参照)。

- 6 **続行**をクリックします。

- 7 会社情報を入力し、**続行**をクリックします。

メモ：アスタリスクが付いたテキストフィールドは必須です。

- 8 次のいずれかの操作を行います。

- 既存の会社アカウントに参加する場合は、**追加を要求**をクリックします。

Fiery IQ は、会社のシステム管理者に要求を送信します。要求が承認されると、Fiery IQ にアクセスできます。

- 独自の会社アカウントを作成する場合は、**会社アカウントの作成**をクリックします。

- 9 必要に応じて、**続行**をクリックします。

- 10 必要に応じて、Fiery アカウントのログイン情報を使用して Fiery IQ にサインインします。

- 11 画面の指示に従って、使用中のプリンターを Fiery IQ に接続します。

プリンターと Fiery IQ の接続については、[Fiery Cloud Connector](#) (23 ページ) を参照してください。

アカウント設定のアップデート

Fiery IQ で、個人情報、パスワード、会社情報、マルチアカウント情報をアップデートまたは表示できます。

- 1 Fiery アカウントのログイン情報を使用して、Fiery IQ にログオンします。

Fiery Dashboard が表示されます。

- 2 右上隅のⒺをクリックし、**ユーザー設定**を選択します。

- 3 必要に応じて、次の情報を変更します。

- 個人情報や会社情報を変更するには、適切なウィジェットの**編集**をクリックします。
- Fiery アカウントに関連付けられている会社を削除する場合、**会社を離れる**をクリックして、**確認**をクリックします。

メモ: システム管理者およびオペレーターユーザーのみが会社を離れることができます。最後の管理者ユーザーが会社を離れると、会社アカウントが削除され、会社アカウントの他のユーザーは Fiery IQ を使用できません。

- Fiery アカウントのパスワードを変更する場合は、**パスワード変更**をクリックし、画面の指示に従います。
- Fiery アカウントを削除する場合は、**アカウントを削除**をクリックし、画面の指示に従って、E メールアドレスに送信される 6 桁のワンタイムパスワード (OTP) を入力します。

メモ: 最後の管理者ユーザーが Fiery アカウントを削除すると、会社アカウントは削除され、会社アカウントの他のユーザーは Fiery IQ を使用できなくなります。

- E メール設定を変更する場合は、**E メール通知設定**をクリックし、設定に応じてチェックボックスをオンまたはオフにして、**確認**をクリックします。

Fiery Dashboard

Fiery IQ クラウドアプリケーションにログオンした後、Fiery Dashboard の Web ページを表示できます。

Dashboard では、次のことができます。

- 次の詳細を含むすべてのプリンターの概要を表示します。
 - **デバイス数合計** {nbh} Fiery IQ に登録されているすべてのプリンター
 - **エラーデバイス** {nbh} 現在エラー状態にあるプリンターの台数
 - **オフラインデバイス** {nbh} 現在オフラインになっているプリンターの台数
 - **印刷済みジョブ** {nbh} すべてのプリンターで印刷されたジョブ数
 - **ユーザー数合計** {nbh} Fiery IQ に登録されたユーザー数
 - **使用率** {nbh} 水平バーにあるすべてのプリンターの累積使用率で、**使用可能**、**エラー**、**印刷中**、**未接続**など、プリンターの状況をもとに使用時間を表示

- 次のクラウドアプリケーションにアクセスします。

- ColorGuard
- Manage
- Insight
- Notify

- 使用中のプリンターの概要を表示する方法を次から選択します。

- **グリッドビュー** {nbh} Fiery Dashboard のデフォルトビュー

をクリックして、グリッドビューで使用中のプリンターの概要にアクセスします。

各タイルには、個々のプリンターが現在の状況と次の印刷プロパティとともに表示されます。

- **印刷済みジョブ** {nbh} プリンターで印刷されたジョブ数
- **印刷回数** {nbh} すべての印刷済みジョブの印刷済みページ数
- **カラー印刷回数** {nbh} すべての印刷済みジョブの印刷済みカラーページ数
- **白黒印刷回数** {nbh} すべての印刷済みジョブの印刷済み白黒ページ数

タイルを選択すると、一覧表示されているプリンターの詳細を表示できます。

- **リストビュー** {nbh} をクリックして、リストビューの使用中のプリンターの概要にアクセスできます。

リストビューには、すべてのプリンター、また他のプリンターの名前、モデル、IP アドレス、Fiery Cloud Connector の状態、デバイスの状態などの詳細が表示されます。

すべてのデバイス リストから 1 台のプリンターを選択できます。**検索** フィールドに名前、モデル、IP アドレス、Fiery Cloud Connector の状態またはデバイスの状態を入力して、プリンターを検索できます。

プリンターに関する追加情報を表示するには、リスト内のいずれかの行を選択します。

デバイスの表示名を変更する

デバイスにカスタム表示名を割り当てたり、カスタム名を編集したり、Fiery IQ で元のデバイス名にリセットしたりできます。

表示名を追加

- 1 Fiery Dashboard で、リストから目的のデバイスを選択します。
- 2 **表示名の追加** アイコン (+) をクリックします。
- 3 **名前** フィールドに、名前を入力します。
表示名は半角英数字で最大 30 文字まで使用できます。
- 4 **保存** をクリックします。

表示名を編集

- 1 Fiery Dashboard で、リストから目的のデバイスを選択します。
- 2 表示された名前の横にある**表示名の編集**アイコン (✎) をクリックします。
- 3 **名前**フィールドに、新しい名前を入力します。
- 4 **保存**をクリックします。

元のデバイス名にリセット

- 1 Fiery Dashboard で、リストから目的のデバイスを選択します。
- 2 表示名の横にある**表示名の編集**アイコン (✎) をクリックします。
- 3 **デフォルトにリセット**をクリックします。

Fiery IQ でのアクティブなアプリケーションの変更

Fiery IQ で表示されるアクティブなアプリケーションを変更できます。

- 1 Fiery IQ クラウドアプリケーションで■をクリックします。
- 2 目的のアプリケーションを選択して開きます。

会社アカウントの切り替え

複数のアカウントに割り当てられている場合は、Fiery IQ で別の会社アカウントに切り替えることができます。

メモ：Fiery IQ クラウドアプリケーションは、会社アカウントの切り替え機能をサポートしています。

- 1 Fiery IQ クラウドアプリケーションで🔗をクリックします。
- 2 希望するアカウントの横にある**サイトの起動**をクリックして、Fiery Dashboard を開きます。

Fiery Admin console

Fiery IQ の管理機能を使用すると、すべての Fiery IQ アプリケーションのユーザーとデバイスを管理できます。

会社アカウントに新しいユーザーを追加する

管理者コンソールにアクセスし、管理者としてサインオンすることで、会社アカウントに新しいユーザーを追加できます。

1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。

2 **ユーザー**をクリックします。

3 **新しいユーザーの追加**をクリックします。

4 Eメールアドレス、**名**、**姓**を入力します。

メモ：名と姓のフィールドには、128 文字までの英数字および特殊文字を使用できます。

5 ユーザーのロールを次のいずれかから選択します。

- **管理者**は、すべてのプリンターおよび Fiery IQ システム管理者機能にアクセスできます。
- **オペレーター**は管理者によって割り当てられたプリンターにアクセスできますが、Fiery Manage および Fiery IQ の管理者機能にはアクセスできません。
- **サポート**は、1 つ以上の会社アカウントにアクセスし、システム管理者機能にアクセスできます。

管理者またはオペレーターのロールを割り当てられた既存の Fiery IQ ユーザーを複数の会社アカウントに参加できるようにする場合、サポートユーザーとしてのみ招待できます。

サポートのロールのみ割り当てられている既存の Fiery IQ ユーザーは、1 つの会社アカウントに限り、管理者またはオペレーターユーザーとして招待できます。

6 **次へ**をクリックします。

7 プロンプトが表示された場合は、ユーザーグループ、デバイスコレクション、または個々のデバイスを選択し、**完了**をクリックします。

アクティベーション E メールが新しいユーザーに送信されます。

会社アカウントに新しいユーザーグループを追加する

会社アカウントに新しいユーザーグループを追加できます。

1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。

2 **グループ**をクリックします。

- 3 **新しいグループを追加**をクリックします。
- 4 新しいグループの**名前**を入力します。
- 5 (オプション) 新しいグループの説明を入力します。
- 6 **次へ**をクリックします。
- 7 グループに追加するユーザー、デバイスコレクション、個々のデバイスのチェックボックスをオンにし、**次へ**をクリックします。
- 8 **完了**をクリックします。

グループにユーザーを追加する

Fiery IQ でユーザーをグループに追加できます。

ユーザーグループに追加する前に、ユーザーアカウントを作成する必要があります。

ユーザーを追加するには、ユーザーグループを作成する必要があります。

メモ：オペレーターのみをユーザーグループに追加できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ユーザー**をクリックします。
- 3 特定のグループに追加する各ユーザーのチェックボックスをオンにします。
- 4 **グループに追加**をクリックします。
- 5 目的のユーザーグループを選択します。
- 6 **完了**をクリックします。

ユーザーロールの変更

Fiery IQ で割り当てられたユーザーロールを変更できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ユーザー**をクリックします。
- 3 ユーザーの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **ロールの変更**を選択します。
- 5 ユーザーのロールを変更します。

オペレーターロールに変更する場合は、**次へ**をクリックして、ユーザーグループ、デバイスコレクション、ユーザーの個々のデバイスを選択します。

- 6 **保存**をクリックします。

ユーザーの削除

Fiery IQ からユーザーを削除できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ユーザー** をクリックします。
- 3 削除するユーザーの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **削除** を選択します。
- 5 **ユーザー削除** ウィンドウで **OK** をクリックします。

新しいシフトの追加

Fiery IQ で新しいシフトを作成できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **シフトマネージャー** をクリックします。
- 3 **新しいシフトを追加** をクリックします。
- 4 **シフト名** フィールドに、希望するシフト名を入力します。
- 5 次のいずれかの方法で、**開始時刻** と **終了時刻** を選択します。
 - ① をクリックして時間を調整します。
 - **開始時刻** または **終了時刻** のフィールドをクリックし、時刻を調整します。
- 6 **休日** で、シフトから削除する日を選択します。
- 7 **保存** をクリックします。

現在のシフトに既存のシフトと同じ名前またはスケジュールが含まれている場合は、**シフトの競合** ウィンドウが表示されます。
- 8 **完了** をクリックします。

シフトの削除

Fiery IQ からシフトを削除できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **シフトマネージャー** をクリックします。
- 3 削除するシフトの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **削除** を選択します。

- 5 シフト削除ウィンドウで **OK** をクリックします。

シフトの編集

Fiery IQ でシフトを編集できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **シフトマネージャー** をクリックします。
- 3 編集するシフトの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **編集** を選択します。
- 5 **シフト名** フィールドに、希望するシフト名を入力します。
- 6 次のいずれかの方法で、**開始時刻** と **終了時刻** を選択します。
 - ⌚ をクリックして時間を調整します。
 - **開始時刻** または **終了時刻** のフィールドをクリックし、時刻を調整します。
- 7 **休日** で、シフトから削除する日を選択します。
- 8 **保存** をクリックします。

現在のシフトに既存のシフトと同じ名前またはスケジュールが含まれている場合は、**シフトの競合** ウィンドウが開きます。

- 9 **完了** をクリックします。

デバイスの詳細を表示する

トナー情報、プリンター使用状況、ジョブの詳細など、デバイスの詳細を表示できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **デバイス** をクリックして、登録済みデバイスのリストを表示します。
- 3 リストからデバイスを選択して、詳細を表示します。

デバイスのトラッキング停止

Fiery IQ のアクティブなデバイスのトラッキングを停止できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **デバイス** をクリックします。
- 3 **アクティブ** タブを選択します。
- 4 対象のデバイスの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。

- 5 **追跡の停止**を選択します。
- 6 **OK**をクリックします。

デバイスのトラッキング開始

Fiery IQ でアクティブではないデバイスを追跡できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **デバイス**をクリックします。
- 3 **非アクティブ**タブを選択します。
- 4 対象のデバイスの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 5 **追跡の開始**を選択します。
- 6 **OK**をクリックします。

デバイスの削除

Fiery IQ からアクティブではないデバイスを永久に削除できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **デバイス**をクリックします。
- 3 **非アクティブ**タブを選択します。
- 4 取り外すデバイスの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 5 **削除**を選択します。

メモ: デバイスを永久に削除した後に再度そのデバイスを追加するには、Fiery IQ サポートチームに連絡してください。

- 6 **はい**をクリックします。
- 7 **OK**をクリックします。

デバイスコレクションの作成

デバイスのコレクションを指定して、Fiery IQ での管理を簡略化できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **デバイスコレクション**をクリックします。
- 3 **新しいデバイスコレクション**をクリックします。
- 4 名前と説明を入力します。

- 5 **次へ**をクリックします。
- 6 コレクションに追加する各デバイスのチェックボックスをオンにします。
メモ：デバイスリストをフィルタリングするデバイスモデルを選択します。
- 7 **次へ**をクリックします。
- 8 **完了**をクリックします。

会社設定の指定

システム管理者は Fiery IQ で会社の追跡設定を指定できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **会社設定**をクリックします。
- 3 次のオプションのチェックボックスを選択またはオフにして、設定を指定します。
 - **ジョブ名を追跡**
 - **ユーザー名を追跡**
 - **サムネイルを表示**

メモ：デフォルトではすべての設定が選択されています。システム管理者が設定チェックボックスをオフにすると、設定はクラウドに送信されません。

- 4 **保存**をクリックします。

プリンターの Fiery IQ アプリケーションライセンス

Fiery Manage または Fiery ColorGuard では各プリンターにライセンスが必要です。

お持ちのアカウントで、Fiery Manage または Fiery ColorGuard の 30 日間無料トライアルをご利用いただけます。

トライアル期間中はトライアルライセンスを使用して、サポートされているすべてのプリンターに接続することができます。30 日間のトライアル期間が終了した後、Fiery Manage または Fiery ColorGuard にアクセスするには、ライセンスアクティベーションコード (LAC) を使用して各プリンターにライセンスを付与する必要があります。

メモ：Fiery IQ アプリケーションライセンスまたはライセンス更新を購入するには、Fiery サプライヤーにお問い合わせください。

Fiery IQ アプリケーションのトライアルライセンスをアクティベートするには、次のいずれかの操作を行います。

- **管理者コンソール** (🔑) をクリックし、**ライセンスマネージャー** をクリックしてから、適切なアプリケーションの **30 日間トライアルを開始** をクリックしてトライアルライセンスをアクティベートします。
- Fiery Dashboard から Fiery Manage または Fiery ColorGuard アプリケーションに移動します。表示されたメッセージの **30 日間トライアルを開始** をクリックします。
- **Dashboard** でご希望のプリンターを選択します。表示されたメッセージウィンドウの **30 日間トライアルを開始** をクリックします。

ライセンスの表示

Fiery ライセンスマネージャーで、Fiery IQ アプリケーションライセンスを表示できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ライセンスマネージャー** をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作で、アクティベートされた Fiery IQ ライセンスを表示できます。
 - 各アプリケーションの利用可能なライセンスと割り当てられたライセンスをウィジェットで表示します。
 - 任意のアプリケーションウィジェットの**管理**をクリックして、選択したアプリケーションのライセンスデバイスを表示します。

新規ライセンスを追加する

使用中のプリンターに Fiery Manage、Fiery ColorGuard またはのライセンスを追加できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ライセンスマネージャー** をクリックします。
- 3 **ライセンスのアクティベート** をクリックします。
- 4 **ライセンスコードを入力** ウィンドウで、テキストフィールドにライセンスアクティベーションコード (LAC) を入力し、**続行** をクリックします。
- 5 **完了** をクリックします。

ライセンスを割り当て

使用中のプリンターにライセンスを割り当てることができます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **ライセンスマネージャー** をクリックします。
- 3 ライセンスを割り当てるアプリケーションウィジェットの**管理**をクリックします。

- 4 **使用可能なライセンス**タブを選択し、使用可能なライセンスの横にあるをクリックします。
- 5 **ライセンスをデバイスに割り当て**を選択します。
- 6 使用可能なライセンスを割り当てるデバイス名の横にあるチェックボックスを選択します。
- 7 **ライセンスを割り当て**をクリックします
ライセンスの有効期限日が**有効期限**列に表示されます。

ライセンスの削除

プリンターに割り当てられた Fiery IQ アプリケーションライセンスは**ライセンスマネージャー**で削除できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** () をクリックします。
- 2 **ライセンスマネージャー**をクリックします。
- 3 ライセンスを削除するアプリケーションウィジェットの **管理**をクリックします。
- 4 **割り当て済みライセンス**タブを選択し、割り当てられたライセンスの横にあるをクリックします。
- 5 **このライセンスを開放**を選択します。
- 6 **確認**をクリックします。

SFTP アカウントの構成

既存の SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) アカウントがある場合は、そのアカウントを Fiery IQ に追加して、さまざまなアプリケーションで使用できます。

設定用の SFTP アカウントを追加する

既存の SFTP アカウントを Fiery IQ に追加できます。最大 10 個の SFTP アカウントを追加できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理コンソール** () をクリックします。
- 2 **SFTP 設定**をクリックします。
- 3 **SFTP の新規追加**をクリックします。
- 4 **名前**フィールドに、SFTP 設定で使用する名前を入力します。
この名前には、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 5 LDAP サーバーの IP アドレスを**サーバー**フィールドに入力します。
- 6 **ポート**フィールドにポート番号を入力します。
ポート番号はデフォルトで 22 と入力されています。

- 7 **ユーザー名**フィールドに SFTP アカウントの電子メールまたはユーザー ID を入力します。
名の前には、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 8 SFTP アカウントのパスワードを**パスワード**フィールドに入力します。
パスワードには、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 9 このアカウントをデフォルトとして設定するには、**デフォルトとして設定**トグルボタンを有効にします。
メモ：デフォルトとして設定できるアカウントは 1 つだけです。
- 10 **接続をテスト**をクリックします。
保存オプションは、[ステップ 4](#) (20 ページ)、[ステップ 5](#) (20 ページ)、[ステップ 6](#) (20 ページ)、[ステップ 7](#) (21 ページ)、および[ステップ 8](#) (21 ページ) で入力した詳細が有効な場合にのみ有効になります。
- 11 **保存**をクリックします。

設定用の SFTP アカウントを編集する

Fiery IQ に追加した SFTP アカウントを編集できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (⚙️) をクリックします。
- 2 **SFTP 設定**をクリックします。
- 3 編集するアイコンの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **編集**を選択します。
- 5 **名前**フィールドに、SFTP 設定で使用する名前を入力します。
この名前には、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 6 LDAP サーバーの IP アドレスを**サーバー**フィールドに入力します。
- 7 **ポート**フィールドにポート番号を入力します。
ポート番号はデフォルトで 22 と入力されています。
- 8 **ユーザー名**フィールドに SFTP アカウントの電子メールまたはユーザー ID を入力します。
この名前には、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 9 SFTP アカウントのパスワードを**パスワード**フィールドに入力します。
パスワードには、半角英数字で最大 100 文字まで使用できます。
- 10 このアカウントをデフォルトとして設定するには、**デフォルトとして設定**トグルボタンを有効にします。
メモ：デフォルトとして設定できるアカウントは 1 つだけです。
- 11 **接続をテスト**をクリックします。
保存オプションは、テストが成功し、入力された詳細が有効な場合にのみ有効になります。
- 12 **保存**をクリックします。

設定用の SFTP アカウントを削除する

Fiery IQ に追加した SFTP アカウントを削除できます。

- 1 Fiery IQ で、**管理者コンソール** (🔑) をクリックします。
- 2 **SFTP 設定** をクリックします。
- 3 削除するアイコンの横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 4 **削除** を選択します。
- 5 **設定を削除** ウィンドウで、**はい、削除します** をクリックします。

Fiery Cloud Connector

Fiery Cloud Connector がプリンターを Fiery IQ サービスに接続します。

Fiery IQ は、印刷サービスプロバイダーの豊富なクラウドアプリケーションを含むクラウドプラットフォームです。

Fiery Cloud Connector では、プリンターおよび Fiery IQ サービスや Web アプリケーションへの接続の管理、登録、トラッキングが行えます。

サポートプリントデバイス

Fiery Cloud Connector は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降が稼働している Fiery サーバーに接続されているプリンターをサポートしています。

Fiery サーバーに Fiery Cloud Connector をインストール

Fiery Command WorkStation のバージョンに応じて、インターネットに接続されている Fiery サーバーに Fiery Cloud Connector をインストールできます。

Fiery Command WorkStation v7.0 以降

- 1 Fiery Command WorkStation を起動します。
- 2 **サーバー**をクリックします。
- 3 **Fiery IQ** をクリックします。
- 4 **Fiery IQ マネージャー**ウィンドウで、Fiery サーバーの横にある切り替えボタンをオンにして Fiery IQ に接続します。
- 5 プロンプトが表示された場合は、**今すぐリブート**をクリックします。

Fiery Command WorkStation v6.8 または v6.7

- 1 Fiery Command WorkStation を起動します。
- 2 **サーバー**をクリックします。
- 3 **EFI IQ > Fiery サーバーのアップデート**を選択します。

Fiery Cloud Connector がダウンロードされ、インストールを開始します。

- 4 Fiery サーバーが Fiery Cloud Connector にプレインストールされている場合は、**EFI IQ > EFI IQ に接続**を選択します。

メモ：FS500/500pro 以降の Fiery サーバーは Fiery Cloud Connector がプレインストールされています。

Fiery Command WorkStation v6.6 以降

PS パッチを介して Fiery サーバーに Fiery Cloud Connector をインストールします。PS パッチのインストールについては、[Fiery IQ サポートチーム](#)にお問い合わせください。

Fiery Cloud Connector のトラッキング状況

Fiery Cloud Connector のプリンターの各トラッキング状況の詳細は、次の通りです。

- **アクティブ** {nbh} プリンターが Fiery IQ クラウドにデータを送信中です。
- **進行中** {nbh} プリンターが Fiery IQ クラウドに接続中です。
- **重複** {nbh} プリンターは別の Fiery Cloud Connector からすでに Fiery IQ クラウドに接続されています。
- **拒否** {nbh} Fiery IQ がトラッキング開始のリクエストを拒否しました。
- **削除** {nbh} プリンターが Fiery IQ クラウドから削除されました。プリンターを再びトラッキングするには、Fiery IQ サポートチームに連絡してください。
- **パッシブ** {nbh} Fiery Cloud Connector は Fiery IQ クラウドにデータを送信していません。

プロキシ設定の構成

Fiery Cloud Connector を使用して、ファイアウォールを介して Fiery IQ に接続するようにプロキシ設定を構成できます。

Fiery Cloud Connector と Fiery サーバーは同じプロキシネットワークに存在する必要があります。

- 1 次のいずれかの場所から、Fiery Cloud Connector を開始します。

- Windows : **スタート > Fiery > Fiery Cloud Connector**
- ブラウザ : ブラウザを開き、**https://IP address/shopmanager/#/**に移動します。このページで「IP address」は Fiery サーバーの IP アドレスのことです。

- 2 **プロキシ設定**をクリックします。

- 3 **プロキシ設定**ウィンドウで、**プロキシを使用する**をオンにします。

Fiery サーバーにプロキシがすでに設定されている場合、Fiery Cloud Connector はプロキシ設定を自動的に取得して適用します。手順 6 (25 ページ) に進みます。

Fiery サーバーにプロキシが設定されていない場合、手動でプロキシを設定する必要があります。手順 4 (24 ページ) に進みます。

- 4 表示されたフィールドにプロキシサーバーの情報を入力します。

5 プロキシセキュリティ方式では、次のいずれかを選択します。

- **自動** - 基本認証を使用します。
- **ダイジェスト** - セキュアな認証を使用します。

6 テストをクリックします。

プロキシ設定が有効な場合は、設定メッセージが表示されます。

7 保存をクリックします。

8 Fiery Cloud Connector を再起動してプロキシ設定を適用します。

Fiery ColorGuard

Fiery ColorGuard により、Fiery Driven プリンターで正確かつ一貫したカラーの維持や確認が容易になります。

Fiery ColorGuard で、特定のシステムの検証または再キャリブレーションを行う時期がきたら、オペレーターに対して自動的にプロンプトを表示する、カラー検証スケジュールまたはカラーの再キャリブレーションスケジュールを作成します。サポートされているインライン測定器を使用している場合、ユーザー入力なくとも検証と再キャリブレーションが自動的に実行されます。オペレーターはカラーをすばやく簡単に確認でき、結果はプロダクションマネージャーがレビューできるように自動的にアップロードされます。オペレーターは、再キャリブレーションを行う際に通知を受けることができます。Fiery Driven プリンターで一貫したカラー品質を確保するために必要な、個別検証、複数のプリンターの比較、検証の経時的な傾向を詳しく確認し、再キャリブレーションをスケジュールできます。

各プリンターについて、Fiery ColorGuardWeb アプリケーションで選択可能な検証プリセットに対して検証や再キャリブレーションをスケジュールします。その後、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションによって、スケジュールが保留中であることがプリンターオペレーターに通知され、オペレーターはクライアントアプリケーションのワークフローを通じて、プリンター、メディア、トナーおよびインクを確認または再キャリブレーションできるようになります。

検証ワークフローでは、クライアントアプリケーションが、オペレーターが印刷済みパッチレイアウトの測定に使用する FieryMeasure を開きます。次に、Fiery Verify が FieryMeasure から測定値を受け取り、その結果の概要を表示します。また、結果の分析も提供します。クライアントアプリケーションは検証結果を web アプリケーションにアップロードし、レビュー、分析、他の結果と比較してさまざまな傾向を特定できます。

再キャリブレーションワークフローでは、クライアントアプリケーションによって Fiery Calibrator が開き、オペレーターはこれを使用して Fiery Driven プリンターのカラー出力の再キャリブレーションを実行します。Fiery Calibrator は再キャリブレーションのワークフローの一部として FieryMeasure を使用します。

Fiery Driven プリンターで一貫した正確なカラーを維持するために、次の Fiery ColorGuard アプリケーションを使用してください。

- <https://iq.fiery.com/colorguard/> の Fiery ColorGuard Web アプリケーション - Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションで完了する検証、スポットカラーの検証および再キャリブレーションのスケジュールを設定し、検証結果を追跡します。スポットカラーの検証は、Fiery Spot Pro から開始できます。
- Fiery Command WorkStation と統合した Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション - カラー出力の検証、スポットカラーの検証または再キャリブレーションを実行するタイミングをプリンターオペレーターに通知し、FieryMeasure を使用してカラー出力の印刷と測定を行い、検証結果を Fiery Verify に表示し、検証結果を Fiery ColorGuard web アプリケーションにアップロードします。

サポートプリントデバイス

Fiery ColorGuard は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降が稼働している Fiery サーバーに接続されているプリンターをサポートしています。

Fiery ColorGuard web アプリケーション

Fiery ColorGuard web アプリケーションを使用すると、特定のシステムの検証または再キャリブレーションを行う時期がきたら、オペレーターに対して自動的にプロンプトを表示する、カラー検証スケジュールまたはカラーの再キャリブレーションスケジュールを作成します。

オペレーターはカラーをすばやく簡単に確認でき、結果はプロダクションマネージャーがレビューできるように自動的にアップロードされます。オペレーターは、再キャリブレーションを行う際に通知を受けることができます。Fiery Driven プリンターで一貫したカラー品質を確保するために必要な、個別検証、複数のプリンターの比較、検証の経時的な傾向を詳しく確認し、再キャリブレーションをスケジュールできます。各プリンターについて、Fiery ColorGuardWeb アプリケーションで選択可能な検証プリセットに対して検証や再キャリブレーションをスケジュールします。

<https://iq.fiery.com/colorguard/>から Fiery ColorGuard web アプリケーションにアクセスできます。

サポート対象のブラウザーおよびオペレーティングシステム

Fiery ColorGuard web アプリケーションは、次のブラウザーをサポートしています。Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションは、次のオペレーティングシステムをサポートしています。

ブラウザー

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Mozilla Firefox
- Safari 11 以降

オペレーティングシステム

メモ：Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションは、x64 ビットのオペレーティングシステムのみをサポートしています。

- Microsoft Windows10 以降
- macOS Catalina 10.15 以降

Fiery ColorGuard でサポートされている測定器

Fiery ColorGuard が印刷された出力を測定し、カラー検証を行うには計測器が必要です。Fiery ColorGuard がサポートしている測定器は以下の通りです。

サポートされている計測器

- EFI ES-2000
- Fiery ES-3000
- Fiery ES-6000 (イーサネット)
- Fiery ES-6000 (USB)
- X-Rite i1 iSis

- X-Rite iLiSis XL
- X-Rite i1Pro
- X-Rite i1Pro 2
- X-Rite i1Pro3
- X-Rite i1Pro 3 Plus
- X-Rite i1iO
- X-Rite i1iO 2
- X-Rite i1iO3
- X-Rite i1iO3+
- Barbieri Spectropad (USB 接続のみ)
- Barbieri Spectro LFP
- Barbieri Spectro LFP qb
- Barbieri Spectro Swing
- Konica Minolta FD-5BT
- Konica Minolta FD-9
- 給紙ユニット装着 Konica Minolta FD-9
- Konica Minolta MYIRO-1
- Konica Minolta MYIRO-9
- 給紙ユニット装着 Konica Minolta MYIRO-9
- TECHKON SpectroDens

次のインライン計測器は、検証、キャリブレーション、およびベンチマーク検証でのみサポートされています。

- Canon iPRC10000VP シリーズインライン
- Xerox iGen インライン分光測色計
- Xerox Full Width Array
- Konica Minolta IQ-501

次のインライン測定器は、再キャリブレーションでのみサポートされています。

- Ricoh Auto Color Adjuster

Fiery ColorGuard Dashboard

ColorGuard Web アプリケーションにログオンした後、Fiery ColorGuard **Dashboard** を表示できます。

メモ：  をクリックすると、ColorGuard Web アプリケーションの任意のタブから **Dashboard** にアクセスできます。

Fiery ColorGuard **Dashboard** からは、次の操作を行うことができます。

- ショップ概要に、すべてのスケジュールの最新情報を表示します。
- 次のいずれかの方で使用中のプリンターのフィルタリングを実行します。
 - **ライセンスあり**
 - **ライセンス削除済**
 - **すべて**
- 次のいずれかの方法で、使用中のプリンターを検索します。
 - IP アドレス
 - デバイス名
- スケジュールされた検証を表示するか、**スケジュール作成**をクリックしてスケジュールされた検証を作成します詳細については、[検証スケジュールを作成する](#)（34 ページ）を参照してください。
- スケジュールされた再キャリブレーションを表示するか、**スケジュール作成**をクリックしてスケジュールされた再キャリブレーションを作成します詳細については、[再キャリブレーションスケジュールの作成](#)（36 ページ）を参照してください。
- ライセンスのあるプリンターの有効期限日を表示します。
- ライセンス**管理**をクリックして Fiery ColorGuard ライセンスオプションの**ライセンスマネージャ**にアクセスします詳細は、[プリンターの Fiery IQ アプリケーションライセンス](#)（18 ページ）を参照してください。

検証プリセットを作成する

検証プリセットを作成して、スケジュールされたカラー検証に使用する**カラーリファレンス**、**許容値設定**、**パッチセット**を指定します。

以下の点に留意してください。

- **カラーリファレンス**には、サンプル測定値を比較する対象カラーが含まれます。
メモ： GRACoL2013 や FOGRA51 などの業界標準色空間は、ほとんどのカラー参照選択肢を含んで構成されています。
- **許容値セット**は、カラーリファレンスとサンプル測定の比較に使われる基準を定義します。
- **パッチセット**には、測定サンプルとして使用するために印刷されるカラーパッチが含まれています。
メモ： Idealliance Control Wedge 2013、Fogra Media Wedge V3、IT8.7/4、IT8.7/5 などの業界標準パッチセットは、ほとんどのパッチセット選択肢を含む構成となっています。

検証スケジュールを作成するには、検証プリセットが必要です。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 新しいプリセットを作成するか、既存のプリセットを複製します。
 - **新規検証プリセット作成**をクリックして、新しいプリセットを作成します。または、
 - 既存の**検証プリセット**のリストの上にカーソルを置き、をクリックして、既存のプリセットを複製します。

- 3 検証プリセットで、新しいプリセットの名前を入力します。
- 4 検証するカラープロダクションワークフローに適した**カラーリファレンス**を選択します。
 - または、**+**をクリックして、新しいカラーリファレンスをインポートします。詳細は、[カラーリファレンスをインポートする](#) (31 ページ) を参照してください。

メモ：選択内容が、実行中のカラー検証ジョブの印刷に使用するソースカラープロファイルと一致していることが推奨されます。
- 5 検証するカラープロダクションワークフローに適した**許容値セット**を選択します。
 - または、をクリックして、新しい許容値セットを作成するか、既存の許容値セットを変更します。詳細は、[許容値設定の作成/編集](#) (32 ページ) を参照してください。
- 6 検証するカラープロダクションワークフローに適した**パッチセット**を選択します。
 - または、**+**をクリックして、新しいパッチセットをインポートします。詳細は、[パッチセットをインポートする](#) (33 ページ) を参照してください。
- 7 **保存**をクリックします。

検証プリセットの編集

Fiery ColorGuard で検証プリセットを変更できます。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **検証プリセット**タブで、既存の検証プリセットリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックします。
- 4 **検証プリセット**ウィンドウの**検証プリセット**フィールドに任意の名前を入力します。
- 5 検証するカラープロダクションワークフローに適した**カラーリファレンス**を選択します。
 - または、**+**をクリックして、新しいカラーリファレンスをインポートします。詳細は、[カラーリファレンスをインポートする](#) (31 ページ) を参照してください。

メモ：選択内容が、実行中のカラー検証ジョブの印刷に使用するソースカラープロファイルと一致していることが推奨されます。
- 6 検証するカラープロダクションワークフローに適した**許容値セット**を選択します。
 - または、をクリックして、新しい許容値セットを作成するか、既存の許容値セットを変更します。詳細は、[許容値設定の作成/編集](#) (32 ページ) を参照してください。
- 7 検証するカラープロダクションワークフローに適した**パッチセット**を選択します。
 - または、**+**をクリックして、新しいパッチセットをインポートします。詳細は、[パッチセットをインポートする](#) (33 ページ) を参照してください。
- 8 **保存**をクリックします。

検証プリセットの削除

Fiery ColorGuard から検証プリセットを削除できます。

メモ：現在、検証スケジュールで検証プリセットが使用されている場合、**検証プリセット**タブから検証プリセットを削除することはできません。検証スケジュールから検証プリセットを削除する必要があります。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **検証プリセット**タブで、既存の検証プリセットリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックして既存の検証プリセットを削除します。
- 4 **プリセット削除**ウィンドウで**はい**をクリックします。

カラーリファレンスをインポートする

カスタム検証プリセットで使えるカラー参照をインポートできます。インポートしたカラーリファレンスを使用した検証プリセットは、スケジュールされた検証にも使用できます。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **カラーリファレンス**タブをクリックします。
- 3 **カラーリファレンスをインポートする**をクリックします。
- 4 **参照**ウィンドウで、インポートするカラーリファレンスに移動します。
- 5 **開く**をクリックします。

カラーリファレンスの名前の変更

Fiery ColorGuard でカラー参照名を変更できます。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **カラーリファレンス**タブで、既存のカラーリファレンスリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックします。
- 4 **カラー参照の名前変更**ウィンドウで、任意の名前を入力します。
- 5 **OK**をクリックします。

カラーリファレンスの削除

Fiery ColorGuard からカスタムカラー参照を削除できます。

メモ：現在、カスタムカラー参照が検証プリセットで使用されている場合、カラー参照を**カラー参照**タブから削除することはできません。検証プリセットからカスタムカラーリファレンスを削除する必要があります。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **カラーリファレンスタブ**で、既存のカラーリファレンスリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックして既存のカラーリファレンスを削除します。
- 4 **カラー参照の削除**ウィンドウで**はい**をクリックします。

許容値設定の作成/編集

許容値設定は、測定値をカラーリファレンスと比較する際の基準を定義します。制限を超える検証結果を警告または失敗と表示するかどうかを選択できます。

以下を含むカラーワークフローの許容バリエーション限度を把握します。

- ΔE 式
- 通常の ΔE 限度
- 原色の ΔE 限度
- 色相差異の ΔH 限度
- トーン値の許容限度
- 彩度差異の ΔCh 限度
- NPDC の ΔL 限度
- スポットカラー ΔE 限度

メモ：限度は、条件ごとに計算される許容値範囲を定義します

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **許容値セット**タブで、既存の許容値セットのリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックします。
- 4 (オプション) **許容値設定**の名前を編集します。
- 5 **ΔE 式**を選択します。
- 6 必要な**許容値基準**のチェックボックスを選択します。
- 7 選択した各基準の**限度**を入力します。
- 8 測定値が指定限度を超えたことを示すには、選択した各基準に対して、**警告**または**失敗**を選択します。
警告はあくまで参考情報であり、検証を合格させることができます。
失敗の場合は、検証全体が失敗となります。
- 9 **保存**をクリックします。

許容値セットの名前の変更

Fiery ColorGuard の許容値セット名を変更できます。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **許容値セット**タブで、既存の許容値セットのリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックします。
- 4 **許容値セットの名前の変更**ウィンドウで、任意の名前を入力します。
- 5 **OK**をクリックします。

許容値セットの削除

Fiery ColorGuard から許容値セットを削除できます。

メモ：現在、検証プリセットでカスタム許容値セットが使用されている場合、**許容値セット**タブから許容値セットを削除することはできません。検証プリセットからカスタム許容値セットを削除する必要があります。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **許容値セット**タブで、既存の許容値セットのリストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックして既存の許容値セットを削除します。
- 4 **許容値設定の削除**ウィンドウで**はい**をクリックします。

パッチセットをインポートする

カスタム検証プリセットで利用できるパッチセットをインポートできます。インポートしたパッチセットを使用した検証プリセットは、スケジュールされた検証にも使用できます。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **パッチセット**タブをクリックします。
- 3 **パッチセットをインポート**をクリックします。
- 4 **参照**ウィンドウで、インポートするパッチセットに移動します。
- 5 **開く**をクリックします。

パッチセットの名前の変更

Fiery ColorGuard でパッチセット名を変更できます。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **パッチセット**タブで、既存のパッチセットリストにカーソルを合わせます。

- 3 をクリックします。
- 4 **パッチセット名の変更**ウィンドウで、任意の名前を入力します。
- 5 **OK**をクリックします。

パッチセットの削除

Fiery ColorGuard からパッチセットを削除できます。

メモ: 現在、検証プリセットでカスタムパッチセットを使用している場合、**パッチセット**タブからパッチセットを削除することはできません。検証プリセットからカスタムパッチセットを削除する必要があります。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **パッチセット**タブで、既存の**パッチセット**リストにカーソルを合わせます。
- 3 をクリックして既存のパッチセットを削除します。
- 4 **パッチセットの削除**ウィンドウでは**はい**をクリックします。

検証スケジュールを作成する

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションからカラーの確認を行うときに、プレスオペレーターに通知するための検証をスケジュールします。

開始する前に、次を行います。

- 使用する検証プリセットを確認します。
検証プリセットは、検証テストの基本色空間と許容値を指定します。お好みの CMYK リファレンス (FOGRA や GRACoL など) と許容値セットのプリセットを選択します。
- 使用するプリンターのジョブのプロパティのサーバープリセットを確認します。
サーバープリセットは、スケジュールされた検証に使用するジョブプロパティのグループを指定します。理想的なカラー出力を確保するために、Fiery Command WorkStation でサーバープリセットを作成する必要があります。サーバープリセット作成の詳細については、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。
サーバープリセットの作成後、検証するプロダクションワークフローのジョブのプロパティに一致するように ColorGuard Web アプリケーションでサーバープリセットを選択します。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、次のいずれかを行います。
 - 希望するプリンターに移動し、**検証スケジュール**ウィンドウで**スケジュールの作成**をクリックします。
 - をクリックしてから、**スケジュールの新規作成**をクリックすると、**スケジュール**タブに移動します。
- 2 **検証**を選択します。
- 3 **名前**フィールドに新しいスケジュールの名称を入力します。

4 検証スケジュールに含めるデバイスを選択します。

選択したプリンターに検証スケジュールを設定した場合は、プリンターが**デバイス**メニューに一覧表示されます。

5 (オプション) 自動的にインライン測定器で検証する。 チェックボックスをオンにして、追加オプションを有効にします。

- **検証前に印刷するウォームアップページの枚数**
- **検証に失敗した場合、再キャリブレーションを実行**

プリンターによっては、次のオプションもあります。

- **検証前に簡単なエンジンキャリブレーションを実行**
- **検証に失敗した場合、完全なエンジンキャリブレーションを実行**

サポートされているプリンターを確認するには、次のサイトを参照してください：<https://www.fiery.com/products/color-imaging/fiery-colorguard/#specifications>

6 検証スケジュールに適したジョブのプロパティサーバープリセットを選択します。

理想的なカラー出力を確保するには、任意のサーバープリセットを使用します。

7 検証プリセットメニューからプリセットを選択します。

8 次へをクリックします。

9 カラー検証を実行するタイミングを指定します。

10 (オプション) 通知で、受信者の追加をクリックして、特定の受信者に指定したイベント（検証の成功など）の E メール通知を送信します。

E メール受信者は、Fiery アカウントがなくても検証イベントの通知を受信できます。

11 完了をクリックします。

ユニバーサル検証スケジュールを作成する

ユニバーサル検証スケジュールは単一のメディアタイプに対して実行されますが、検証結果はその他のすべてのメディアに適用されます。プリンターが 1 つのメディアで検証に失敗すると、その他のメディアでも失敗する可能性が高くなります。ユニバーサル検証スケジュールを使用すると、徐々に検証の労力が軽減されます。

1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックしてスケジュールに移動します。

2 カーソルをスケジュールに合わせて、ユニバーサル検証スケジュールチェックボックスをオンにします。

Fiery Spot Pro からのスポットカラー検証スケジュールの作成

Fiery Spot Pro からスポットカラー検証スケジュールを起動できます。

Fiery スポットカラーレポートは、特定の用紙またはサブストレートおよび出力プロファイルに対して選択された 1 つのスポットカラーグループのスポットカラーチェックを実施すると生成されます。このチェックに

より、選択されたスポットカラーグループのカラーをプレスがどの程度再現するかを示すレポートが生成されます。

Fiery スポットカラーレポートで測定された $L^*a^*b^*$ 値は、ColorGuard のスポットカラー検証スケジュールの参照値として渡されます。

スポットカラーのチェックを行うには、Fiery Spot Pro のツールバーで **チェック** をクリックします。詳細は、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。

Fiery スポットカラーレポートウィンドウで **スケジュール作成** をクリックして、Fiery Spot Pro からカラー検証スケジュールを開始した後に、**スポットカラー検証** ウィンドウが ColorGuard Web アプリケーションで開きます。

Fiery Spot Pro から取得したデバイス名、パッチセット、出力プロファイル、スポットカラー数などのスポットカラー検証の詳細情報を確認できます。

- 1 **名前** フィールドに新しいスケジュールの名前を入力するか、またはデフォルトの名前を編集します。
- 2 リストから **許容値設定** を選択します。
 をクリックすると、許容値設定を編集できます。詳細は、[許容値設定の作成/編集](#) (32 ページ) を参照してください。
- 3 **次へ** をクリックします。
- 4 カラー検証を行う時刻と日付を選択します。
- 5 (オプション) **通知** で、**受信者の追加** をクリックして、指定した受信者に検証合格などの指定したイベントの E メール通知を送信します。
E メール受信者は、Fiery アカウントがなくても検証イベントの通知を受信できます。
- 6 **完了** をクリックします。

再キャリブレーションスケジュールの作成

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションからカラーの再キャリブレーションが必要になったときに、プレスオペレーターに通知する再キャリブレーション通知をスケジュールできます。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、次のいずれかを行います。
 - 希望するプレスに移動し、**キャリブレーションスケジュールウィンドウのスケジュール作成** をクリックします。
 - **スケジュール** タブに移動し、**スケジュール** (📅) をクリックしてから、**スケジュールの新規作成** をクリックします。
- 2 **再キャリブレーション** を選択します。
- 3 **名前** フィールドに新しいスケジュールの名称を入力します。
- 4 再キャリブレーションスケジュールに含める **デバイス** を選択します。
- 5 適切な **キャリブレーションセット** を選択します。
- 6 **次へ** をクリックします。
- 7 カラーの再キャリブレーションが発生する時刻と日付を設定します。

- 8 (オプション) **通知**で、**受信者の追加**をクリックして、指定した受信者に検証合格などの指定したイベントの E メール通知を送信します。

E メール受信者は、Fiery アカウントがなくても検証イベントの通知を受信できます。

- 9 **完了**をクリックします。

ベンチマーク検証スケジュールを作成する

ベンチマーク検証スケジュールを作成し、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションからベンチマーク検証のタイミングをプレスオペレーターに通知できます。

次の点に留意してください。

- 使用するプリンターのジョブプロパティサーバープリセット
- サーバープリセットは、スケジュールされた検証に使用するジョブプロパティのグループを指定します。理想的なカラー出力を確保するために、Fiery Command WorkStation でサーバープリセットを作成する必要があります。詳細は、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。
- サーバープリセットの作成後、検証するプロダクションワークフローのジョブのプロパティに一致するように ColorGuard Web アプリケーションでサーバープリセットを選択します。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、次のいずれかを行います。

- **Dashboard** で希望するプリンターに移動し、**検証スケジュール**ウィンドウで**スケジュール作成**をクリックします。
- **スケジュール** (📅) をクリックし、**スケジュールタブ**に移動してから、**スケジュールの新規作成**をクリックします。

- 2 **ベンチマーク検証**を選択します。

- 3 **名前**フィールドに新しいスケジュールの名称を入力します。

- 4 ベンチマーク検証スケジュールに含める**デバイス**を選択します。

- 5 (オプション) **自動的にインライン測定器で検証**チェックボックスを選択します。

- 6 ベンチマーク検証スケジュールに適した**ジョブのプロパティ**サーバープリセットを選択します。

理想的なカラー出力を確保するには、好みのサーバープリセットを使用します。

- 7 **許容値設定**を選択します。

- 8 **パッチセット**を選択します。

- 9 **次へ**をクリックします。

- 10 ベンチマーク検証を行う時刻と日付を選択します。

- 11 (オプション) **通知**で、**受信者の追加**をクリックして、指定した受信者に検証合格などの指定したイベントの E メール通知を送信します。

E メール受信者は、検証イベントの通知を受信するための Fiery アカウントを必要としません。

- 12 **完了**をクリックします。

- 13 (オプション) **検証要求**アイコン (🔍) をクリックして、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションからベンチマークスケジュールの最初の検証を実行するようにプリンターオペレーターに要求します。

最初の検証が完了すると、ベンチマークが作成されます。ベンチマークは後続のベンチマーク検証のカラー参照として使用されます。

スケジュールを編集する

少なくとも 1 回の検証または再キャリブレーションがスケジュールされている場合は、スケジュールを編集できます。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、🔍 をクリックします。
- 2 編集するスケジュールの上にカーソルを置き、✎ をクリックします。
- 3 必要に応じて、**名前**、**デバイス**、**ジョブのプロパティ**または**検証プリセット**をアップデートします。
- 4 (オプション) **自動的にインライン測定器で検証**チェックボックスを選択します。
- 5 **次へ**をクリックします。
- 6 必要に応じて時刻と曜日をアップデートします。
- 7 (オプション) **通知**で**受信者の追加**をクリックして、スケジュールされたイベント（検証や再キャリブレーションの成功など）の E メール通知を送信します。

メモ：どのメールアドレスでも通知を受け取ることができます。

- 8 **完了**をクリックします。

スケジュールを一時停止または再開する

少なくとも 1 回の検証または再キャリブレーションがスケジュールされている場合は、スケジュールを一時停止または再開できます。

Fiery ColorGuard Web アプリケーションでは、一時停止した検証スケジュールや再キャリブレーションスケジュールを必要なときに再開できます。一時停止したスケジュールは、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションに実行するには送信されず、プリンターオペレーターには特定のカラー検証または再キャリブレーションが保留されていることが通知されません。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、🔍 をクリックします。
- 2 一時停止または再開するスケジュールの上にカーソルを置き、次のいずれかを行います。
 - スケジュールを一時停止するには、⏸ をクリックします。
 - スケジュールを再開するには、▶ をクリックします。

検証を今すぐ要求する

スケジュールされている検証を今すぐ要求できます。

少なくとも 1 回の検証が予定されていることを確認してください。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 要求するスケジュールされた検証の上にカーソルを置き、をクリックします。

メモ：インライン計測器で自動的に検証 チェックボックスが選択されているスケジュールでをクリックすると、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションに検証要求が送信され、スケジュールされた検証が自動的に実行されます。

再キャリブレーションの即時実施要求

予定されている再キャリブレーションを即時に実施するように要求を送信できます。

少なくとも 1 回の再キャリブレーションが予定されていることを確認してください。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 要求する再キャリブレーションの上にカーソルを置き、をクリックします。

検証履歴を表示する

Fiery ColorGuard Web アプリケーションから、状況を確認し、完了した検証の詳細結果を表示します。

- 1 ColorGuard Web アプリケーションで、をクリックします。
- 2 リストから**検証**または**スポットカラー検証**のいずれかを選択します。
- 3 (オプション) をクリックして、表示する検証結果の範囲を変更します。
- 4 次のいずれかの方法で、使用中のプリンターを検索します。
 - IP アドレス
 - デバイス名
- 5 個々の検証結果の上にカーソルを置き、をクリックして詳細な検証結果を表示します。
- 6 次のいずれかの方法で、検証結果をフィルタリングします。
 - 合格
 - 失敗
 - エラー

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションを使用すると、オペレーターはすばやくカラーを確認したり、検証結果をクラウドに自動的に報告したり、最近の検証履歴を確認できます。

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションの構成内容は次のとおりです。

- Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション: カラー出力やスポットカラー出力を検証するタイミングをプリンターオペレーターに通知し、結果を Fiery ColorGuardWeb アプリケーションにアップロードします。
- FieryMeasure: カラー出力を測定します。
- Fiery Verify: 検証結果を表示します。

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションには、次の方法でアクセスできます。

- Fiery Command WorkStation v7.0 以降の場合:
Fiery Command WorkStation v7.0 以降に統合されている Fiery ColorGuard クライアント、Fiery Calibrator、FieryMeasure、Fiery Verify などのアプリケーション。Fiery Software Manager から Fiery Command WorkStation の最新のバージョンをダウンロードして、最新の機能を使用できます。
- Fiery Command WorkStation v6.8 以前の場合:
Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションを <https://iq.fiery.com/colorguard/> からローカルコンピューターにダウンロードしてインストールします。詳細については、[Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをダウンロードしてインストール](#) (40 ページ) を参照してください。

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをインストールする

アクティブなインターネット接続が必要です。この手順は、Fiery Command WorkStation v7.0 以降を使用している場合にのみ適用されます。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、**ダッシュボード** の **ダウンロード ColorGuard クライアントソフトウェア** をクリックします。
- 2 **今すぐダウンロード** をクリックして、Fiery Command WorkStation v7.0 以降をダウンロードします。
- 3 登録に必要な情報を入力し、**送信** をクリックします。
- 4 **Mac** または **Windows** のいずれかをクリックして、使用しているオペレーティングシステムに適した Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをダウンロードします。
- 5 Fiery Software Manager インストーラーを開いて実行します。
- 6 Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションにアクセスするには、Fiery Command WorkStation v7.0 をインストールします。

Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをインストールする

アクティブなインターネット接続が必要です。この手順は、Fiery Command WorkStation v6.8 以前を使用している場合にのみ適用されます。

- 1 ColorGuard web アプリケーションで、**ダッシュボード** の **ダウンロード ColorGuard クライアントソフトウェア** をクリックします。
- 2 **Mac** または **Windows** のいずれかをクリックして、使用しているオペレーティングシステムに適した Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをダウンロードします。
- 3 Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションインストーラーを開いて実行します。
- 4 Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションを開きます。
- 5 Fiery アカウントログイン情報を使用して Fiery ColorGuard アカウントにサインインします。

Fiery Command WorkStation v7.0 以降の Fiery ColorGuard クライアントアプリケーション

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションは Fiery Command WorkStation v7.0 以降に統合されています。Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- **サーバー > ColorGuard** をクリックします。
- サーバーウィンドウでサーバー名の横にある詳細 (⋮) アイコンをクリックします。
- 通知タブの保留中のスケジュールをクリックします。

通知タブには、Fiery ColorGuard の保留中のスケジュール通知が含まれています。次のいずれかの操作を実行できます。

- **今すぐ再キャリブレーションする** をクリックしてキャリブレーターを開き、再キャリブレーションを完了します。
- **今すぐ検証** をクリックして FieryMeasure を開き、検証またはベンチマーク検証を完了します。

新しくライセンスを取得した Fiery サーバーまたは 30 日間のトライアルライセンスを使用している Fiery サーバーの詳細情報を表示するには、**ライセンス取得済みプリンターをリフレッシュする** をクリックします。ボタンを 5 分に 1 回クリックすると、Fiery サーバーのリフレッシュされたリストおよびスケジュールを確認できます。

カラー出力またはスポットカラー出力を検証する

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションで、スケジュールに従って、プリンターのカラー出力またはスポットカラー出力を検証できます。

次の点に留意してください。

- インターネット接続
 - サポートされている測定器
 - プリンターにスケジュールされている検証
- 1 Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションを開きます。
 - 2 スケジュールアイコン (🕒) をクリックします。

3 検証をクリックします。

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションは FieryMeasure を使用して、検証のためにカラーパッチを印刷および測定します。

メモ：スケジュールされた検証の**インライン計測器で自動的に検証**チェックボックスが選択されていると、Fiery Verify はあらかじめスケジュールされた時間になると自動的に**進行中**に変わります。

4 計器リストから測定器を選択します。

オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。

5 チャートサイズリストから、**ジョブのプロパティプリセット** (34 ページ) で指定された用紙に対応するチャートサイズを選択します。

6 (オプション) ウォームアップページ数を指定します。

メモ：ウォームアップページは、プリンターが一定期間使用されていない場合に役に立ちます。

7 印刷をクリックします。

8 プリンターからページを回収し、ウォームアップページをすべて破棄します。

9 画面の指示に従って、ページを測定します。

10 完了をクリックします。

11 検証結果ウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- **詳細** (🔍) をクリックして、Fiery Verify の詳細な検証結果を表示
- **レポート** (📄) をクリックして、検証結果を共有可能な PDF ファイルとしてダウンロードし、保存
- **ラベル** (🏷️) をクリックして、検証結果のラベルを PDF ファイルとして作成

FieryMeasure

FieryMeasure は、測定器を使用してページに印刷されたカラーパッチの行を測定するユーティリティです。FieryMeasure を使用してパッチページを印刷することもできます。

FieryMeasure は Fiery ES-3000 分光測色計などの複数の測定器をサポートしています。

FieryMeasure はカラーの測定データを必要とする他のアプリケーションから起動されます。

測定ページの測定

カラー測定器 (分光測色計など) は、カラーパッチからの反射光を測定し、測定結果を数値で記憶します。パッチページを測定する手順は、計器によって異なります。

計器によっては自動キャリブレーション機能により計器が正しく機能しているかチェックされます。たとえば、計器が既存のカラーサンプルを正確に測定できるかどうかをチェックしてキャリブレーションを行います。自動キャリブレーションが使用できる場合は、ページを測定する前に計器のキャリブレーションを行う必要があります。

携帯型計器を使用する場合は、ページの位置設定とパッチの各行の測定に関する指示に従う必要があります。自動式計器の場合は、パッチの各行を測定する際に、人の手を介さずに次の行の測定に進みます。また、計器によっては自動でページの位置を設定します。

計器のキャリブレーション

信頼できる測定を行うには、まず測定器をキャリブレートする必要があります。キャリブレーションを正しく行わないと、測定に進むことはできません。

- 1 画面の指示に従って、**次へ**をクリックします。

メモ：EFI ES-2000 または Fiery ES-3000 の分光測色計の場合、ドックのホワイトタイルと計器のアパーチャーの両方に汚れが付着していないことを確認します。EFI ES-2000 または Fiery ES-3000 の分光測色計では、ホワイトタイルカバーは必ず開けておいてください。

- 2 計器のキャリブレーションを正しく行えない場合は、**キャンセル**をクリックしてください。

ES-2000 を使用した測定

EFI ES-2000 分光測色計を使用して、ページ上のカラーパッチを測定できます。

ES-2000 を測定方法に選んだ場合は、計器に対して次の設定を行うことができます。

- **測定モード** - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、ワンパスまたは 2 回のパスで測定できます。
 - **M0** - ワンパス、UV を含む
 - **M1** - 2 回のパス、D50、UV を含む
 - **M2** - 2 回のパス、UV カット
- **ルーラー使用** - EFI ES-2000 の下側の位置センサーがルーラー上のストライプを読み取って、EFI ES-2000 の位置を決定します。そのため、ルーラーとともに板を使用して、EFI ES-2000 をストリップに沿ってガイドする必要があります。2 回のパスでストリップの測定を行う場合は、ルーラーを使用する必要があります。
- **パッチサイズ** - 使用可能なパッチサイズを**普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。**大**を選択すると、大きいパッチが印刷されるので、低解像度のプリンターでも良好な測定結果が得られます。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。

パッチページ測定用の板とルーラーがある場合は、パッチページの位置を正しく設定します。

メモ：ES-2000 では、パッチページの印刷時にルーラーを使用するオプションを選択した場合、必ずルーラーを使用してください。

- 2 ES-2000 が測定中であることを示す画面が表示されたら、画面で指定されたストリップの上または下のホワイトスペースに ES-2000 を置きます。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 3 ボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って ES-2000 を一定の速度でゆっくりとスライドします。

- 4 ES-2000 が端の白いスペースに届いたら、ボタンを離します。
- 5 パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ES-2000 を次のストリップの先頭にあるホワイトスペースに移動します。
- 6 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 7 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 8 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

ES-3000 を使用して測定する

Fiery ES-3000 分光測色計を使用して、ページ上のカラーパッチを測定できます。

ES-3000 を測定方法に選んだ場合は、計器に対して次の設定を行うことができます。

- **測定モード** - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、ワンパスで測定できます。
 - **M0** - ワンパス、UV を含む
 - **M1** - ワンパス、D50 UV を含む
 - **M2** - ワンパス、UV カット
- **ルーラーで測定 (デフォルト)** - Fiery ES-3000 の下側の位置センサーがルーラー上のストライプを読み取って、Fiery ES-3000 の位置を決定します。そのため、ルーラーとともにバックアップボードを使用して、Fiery ES-3000 をストリップに沿ってガイドする必要があります。2 回のパスでストリップの測定を行う場合は、ルーラーを使用する必要があります。
- **パッチサイズ** - 使用可能なパッチサイズを**普通 (デフォルト)**、**中**、**大**から選択します。**大**を選択すると、大きいパッチが印刷されるので、低解像度のプリンターでも良好な測定結果が得られます。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。
- **ルーラーなしで測定** - このオプションを選択すると、ルーラーとともにバックアップボードを使用せずに大きなパッチを測定できます。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。

パッチページ測定用の板とルーラーがある場合は、パッチページの位置を正しく設定します。

メモ：ES-3000 では、パッチページの印刷時にルーラーを使用するオプションを選択した場合、必ずルーラーを使用してください。

- 2 ES-3000 が測定中であることを示す画面が表示されたら、画面で指定されたストリップの上または下の白いスペースに ES-3000 を置きます。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 3 ボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って ES-3000 を一定の速度でゆっくりとスライドします。

- 4 ES-3000 が端の白いスペースに届いたら、ボタンを離します。
- 5 パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ES-3000 を次のストリップの先頭にある白いスペースに移動します。
- 6 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 7 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 8 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

ビデオは[ここから](#)ご覧ください。

FD-5BT を使用して測定する

Konica Minolta FD-5BT 分光測色計を使用して、ページのカラーパッチを測定できます。

- FD-5BT をコンピューターに接続し、FD-5BT をオンにします。
- FD-5BT の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

FD-5BT を測定方法に選んだ場合は、計器の設定を行うことができます。

測定モード - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、ワンパスまたは 2 回のパスで測定できます。

- **M0** - 標準照明（白熱）、UV フィルターなし
- **M1** - 補足照明（D50）、UV フィルターなし
- **M2** - 標準照明（白熱）、UV フィルター（または UV カット）

メモ：M0、M1、M2 は、ISO 13655 に記載されている標準的測定条件です。

使用可能なパッチサイズを**普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。
より正確に測定するには、測定するページの下に白色の普通紙を数枚敷きます。
- 2 1 行目にストリップガイドを置き、FD-5BT をストリップガイドの上に配置します。
計器の配置方法を確認するには、**方法を表示**をクリックします。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 3 FD-5BT が測定中であることを示す画面が表示されたら、サンプルアパーチャの先端を、画面で指定されたストリップのどちらかの端にある白いスペースに配置します。
- 4 FD-5BT の側面のボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って FD-5BT を一定の速度でゆっくりとスライドします。
- 5 FD-5BT が端の白いスペースに届いたら、ボタンから手を放します。

- 6 パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ストリップガイドと FD-5BT を画面で指定された次のストリップに移動します。
- 7 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 8 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 9 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

Spectropad を使用して測定する

コードレスの Barbieri Spectropad 分光測色計を使用して、ページ上のカラーパッチを測定できます。

- Spectropad をコンピューターに接続し、オンにします。
- Spectropad のキャリブレーションを行います（指示があった場合）。
- Spectropad の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

Spectropad を測定方法として選択した場合、使用可能なパッチサイズを**普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、その行を再測定できます。

- 1 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。
- 2 Spectropad をページ上に配置し、赤いレーザーを使用して測定ヘッドを 1 行目の中央に合わせます。
行は下部から始まり、上部に向かって測定されます。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。
- 3 測定ヘッドを、行のどちらかの端にある白いスペースへとスライドさせます。
- 4 Spectropad の画面に表示される速度インジケーターに従い、測定ヘッドをパッチの行に沿って適度なスピードでスライドさせます。

行の測定が完了すると、Spectropad はビープ音を鳴らし、メッセージを表示します。
- 5 パッチの行の 1 つについて測定が成功したら、Spectropad を画面で指示される次の行に移動します。
- 6 残りの行についても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 7 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。
- 8 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

iLiO2 を使用した測定

iLiO2 によって ES-2000 が自動的にパッチの各行の上に移動し、測定できるようになります。画面上の画像は各行の測定時の状態を示しています。

ページパッチを測定する前に、iLiO2 に接続した ES-2000 をキャリブレーションする必要があります。ES-2000 は iLiO2 のホワイトタイルにキャリブレートされます。ホワイトタイルにカバーがかかっていたり、汚れていたりすると、キャリブレーションが失敗することがあります。

iLiO2 を測定方法として選択した場合、使用可能なパッチサイズを **普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

- 1 最初のパッチページを iLiO2 上に配置し、**次へ**をクリックします。

ページの位置を iLiO2 のアームに最も近い上端に合わせます。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 2 画面の指示を実行し、「A」とマークされたパッチの上にクロスヘアを配置して、ES-2000 のボタンを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。

画面上の画像はパッチ A、B、C を探すのに便利です。

- 3 **次へ**をクリックします。

- 4 iLiO2 によるページ測定が終了したら、**次へ**をクリックします。

- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、C の登録から始めます。

- 6 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

iLiO3 を使用して測定する

iLiO3 によって ES-3000 が自動的にパッチの各行の上に移動し、測定できるようになります。画面上のイメージは各行の測定時の状態を示しています。

パッチページを測定する前に、iLiO3 に接続されている ES-3000 のキャリブレーションを行う必要があります。ES-3000 が iLiO3 上の白タイルにキャリブレートされます。白タイルが覆われていたり汚れていたりすると、キャリブレーションに失敗することがあります。

iLiO3 を測定方法として選択した場合、使用可能なパッチサイズを **普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

- 1 最初のパッチページを iLiO3 上に配置し、**次へ**をクリックします。

ページの位置を iLiO3 のアームの最も近い上端に合わせます。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 2 画面の指示を実行し、「A」とマークされたパッチの上にクロスヘアを配置して、ES-3000 のボタンを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。
画面上の画像はパッチ A、B、C を探すのに便利です。
- 3 **次へ**をクリックします。
- 4 iliO3 によるページ測定が終了したら、**次へ**をクリックします。
- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、C の登録から始めます。
- 6 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

Spectro LFP を使用して測定する

Barbieri Spectro LFP は、自動的にページを測定アパーチャの下に配置し、ページを移動してパッチの各行を測定します。画面上の画像は各行の測定時の状態を示しています。

- Spectro LFP をコンピューターに接続し、オンにします。
- Spectro LFP のキャリブレーションを行います。
- Spectro LFP の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

Spectro LFP を測定方法として選択した場合、使用可能なパッチサイズを **普通 (デフォルト)**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

- 1 最初のパッチページをサンプルホルダー上に配置し、サンプルホルダーを Spectro LFP に挿入したら、**次へ**をクリックします。
画面の表示に従ってページを配置します。
メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。
- 2 画面の表示に従って「A」とマークされたパッチの上に十字線を配置し、**次へ**をクリックするか、Enter キーを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。
画面上の画像はパッチ A、B、C を探すのに便利です。
- 3 **次へ**をクリックします。
- 4 Spectro LFP によるページ測定が終了したら、**次へ**をクリックします。
- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、C の登録から始めます。
- 6 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

Spectro LFP qb を使用して測定する

Barbieri Spectro LFP qb は、自動的にページを測定アパーチャの下に配置し、ページを移動してパッチの各行を測定します。画面上の画像は各行の測定時の状態を示しています。

ページ測定前に、Spectro LFP qb およびコンピューターがローカルエリアネットワークの同じサブネットに接続されている必要があります。わからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

- Spectro LFP qb をコンピューターに接続し、Spectro LFP qb をオンにします。
- Spectro LFP qb のキャリブレーションを行います。
- Spectro LFP qb の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

Spectro LFP qb は USB 接続ではなくローカルエリアネットワークを介してコンピューターに接続されます。Spectro LFP qb は、ネットワーク上の複数のコンピューターのページを測定するのに使用できます。

ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

Spectro LFP qb を測定方法に選んだ場合は、計器に対して次の設定を行うことができます。

測定モード - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、シングルパスで測定できます。

- **M0** - ワンパス、UV を含む
- **M1** - ワンパス、D50 UV を含む
- **M2** - ワンパス、UV カット
- **M3** - ワンパス、偏光フィルターの適用のみ

使用可能なパッチサイズを**普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

USB またはネットワークを選択して、接続設定を選択する必要があります。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 1 最初のパッチページをサンプルホルダー上に配置し、サンプルホルダーを Spectro LFP qb に挿入したら、**次へ**をクリックします。

画面の表示に従ってページを配置します。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- 2 画面の表示に従って「A」とマークされたパッチの上に十字線を配置し、**次へ**をクリックするか、Enter キーを押します。「B」および「C」とマークされたパッチについて手順を繰り返します。

画面上の画像はパッチ A、B、C を探すのに便利です。

- 3 **次へ**をクリックします。

- 4 Spectro LFP qb によるページ測定が終了したら、**次へ**をクリックします。

- 5 残りのパッチページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定します。その際、ページの配置とパッチ A、B、C の登録から始めます。

- 6 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

IiSis または i1iSis XL を使用して測定する

IiSis または i1iSis XL を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページを測定する前に、測定器が正しく接続されていることを確認します。

- 1 最初の測定ページを、示されている方向で計器に配置し、ボタンを押します。
- 2 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 3 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

ES-6000 で測定する

ES-6000 分光測色計は、ページを自動的に読み込み、ローカルエリアネットワークを介してコンピュータに接続できる、X-Rite 準拠の計器です。

ページ測定前に、ES-6000 およびコンピュータがローカルエリアネットワークの同じサブネットに接続されている必要があります。わからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ES-6000 は X-Rite i1 iSis に類似していますが、ES-6000 は USB 接続ではなくローカルエリアネットワークを介してコンピュータに接続されます。ES-6000 は、ネットワーク上の複数のコンピュータのページを測定するのに使用できます。一意の ID がページに印刷されるため、ES-6000 は正しいコンピュータに測定値を送信できます。

ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

- 1 パッチページを挿入する前に、計器のボタンを押します。
- 2 ライトが点滅し始めたら、ページに示されている方向で最初の測定ページを計器に入れます。
- 3 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 4 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

FD-9 を使用した測定

Konica Minolta FD-9 を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページ測定前に、FD-9 をコンピュータに接続し、FD-9 をオンにします。FD-9 の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

- 1 計器の用紙ガイドを測定ページの幅に設定します。
- 2 ページが引き込まれるまで、ページの先端を FD-9 に置きます。
FD-9 計器がオプションのシートフィーダーユニットに接続されている場合は、計器の **OK** ボタンをクリックして測定を開始します。
- 3 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。

- 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

MYIRO-1 を使用して測定する

Konica Minolta MYIRO-1 分光測色計を使用して、ページのカラーパッチを測定できます。

- MYIRO-1 をコンピューターに接続してオンにします。
- MYIRO-1 の詳細および測定器で Wi-Fi 接続を設定する方法の詳細については、計器に付属の説明書を参照してください。

メモ：カラーパッチの測定は、LED が MYIRO-1 で白くなった後 2 秒以内に開始する必要があります。そうしなければ、エラーが発生する可能性があります。

MYIRO-1 を測定方法に選んだ場合は、計器の設定を行うことができます。

測定モード - 測定の種類を選択できます。各ストリップを、シングルパスで測定できます。

- M0** - 標準照明（白熱）、UV フィルターなし
- M1** - 補足照明（D50）、UV フィルターなし
- M2** - 標準照明（白熱）、UV フィルター（または UV カット）

メモ：M0、M1、M2 は、ISO 13655 に記載されている標準的測定条件です。

使用可能なパッチサイズを**普通（デフォルト）**、**中**、**大**から選択します。測定方法は、パッチサイズに関係なく、すべてのパッチで同じです。

ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。期待どおりの測定値が得られなかった場合は、ストリップを再測定できます。

- 滑らかで平らな面にパッチページを置きます。

より正確に測定するには、測定するページの下に白色の普通紙を数枚敷きます。

- 1 行目にストリップガイドを置き、MYIRO-1 をストリップガイドの上に配置します。

計器の配置方法を確認するには、**方法を表示**をクリックします。

メモ：スキャン測定値からスキャンスポット測定値に切り替えたり、チャートとウェッジの両方について行ごとにスキャン測定値に戻すことができます。

- MYIRO-1 が測定中であることを示す画面が表示されたら、サンプルアパーチャの先端を、画面で指定されたストリップのどちらかの端にある白いスペースに配置します。
- MYIRO-1 の側面のボタンを押しながら、パッチのストリップに沿って MYIRO-1 を一定の速度でゆっくりとスライドします。
- MYIRO-1 が端の白いスペースに届いたら、ボタンを離します。
- パッチのストリップの 1 つについて測定が成功したら、ストリップガイドと MYIRO-1 を画面で指定された次のストリップに移動します。
- 残りのストリップについても同じ方法で測定し、ページ上のすべてのパッチの測定が完了するまで続けます。
- 残りのパッチページがある場合はそれらについても同じ方法で測定し、すべてのパッチページの測定が完了するまで続けます。

- 9 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

MYIRO-9 を使用した測定

Konica Minolta MYIRO-9 を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページ測定前に、MYIRO-9 をコンピューターに接続し、MYIRO-9 をオンにします。MYIRO-9 の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

- 1 計器の用紙ガイドを測定ページの幅に設定します。
- 2 ページが引き込まれるまで、ページの先端を MYIRO-9 に置きます。
MYIRO-9 計器がオプションのシートフィーダーユニットに接続されている場合は、計器の **OK** ボタンをクリックして測定を開始します。
- 3 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 4 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

Spectro Swing を使用して測定する

Barbieri Spectro Swing は自動で測定を行います。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

ページを測定する前に、Spectro Swing が正しく接続されていることを確認します。

- 1 最初の測定ページを計器内に配置します。
- 2 残りの測定ページがある場合はそれらについても最初と同じ方法で測定し、すべてのページの測定が完了するまで続けます。
- 3 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

インライン計器で測定する

プリンターに取り付けられているインライン計器を使用した測定は自動的に行われます。ページが正常に測定された場合は、必要に応じて測定値を確認できます。

Fiery ColorGuard は次のインライン測定器をサポートしています。

- Canon iPRC10000VP シリーズインライン
- Xerox iGen 150 インライン分光測色計
- Konica Minolta IQ-501

ページを測定する前に、インライン計器をプリンターに取り付けておく必要があります。インライン計器の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。

ページ（計器）を測定する

測定ページを測定する前に、測定器が正しく接続されていることを確認します。計器のキャリブレーションを行います（そのような指示のある場合）。

メモ：パッチはイエローパッチまたはブラックパッチの行で区切られることにより、どちらの方向でも計器が測定されるようにすることができます。イエローパッチとブラックパッチは測定データに含まれません。

- 1 最初の測定ページを計器内または計器上に配置します。
- 2 ページの登録が必要な場合は、画面の指示に従ってページ位置を登録します。
- 3 計器でパッチの手動スキャンが必要な場合は、画面の指示に従って各ストリップをスキャンします。

メモ：場合によっては、正しいストリップを測定した場合でも、測定が無効であると検出されることがあります。ストリップを再度測定して、正しいストリップが測定されたことを確認します。エラーメッセージは測定プロセスに影響せず、測定器は測定を正常に完了します。

- 4 ページが正常に測定された場合は、測定値を確認できます。

期待どおりの測定値が得られなかった場合、計器で手動スキャンがサポートされていればストリップを再測定できます。

- 5 残りのページの測定を続けます。
- 6 最後のページを測定したら、**次へ**をクリックします。

測定エラー

カラーパッチの測定時には、一連のルールに沿って測定値の有効性が確認されます。これらのルールは、測定値のエラーを検出してストリップをどちらの方向にもスキャンできるように設計されています。

無効な測定値が検出された場合は、測定を繰り返すことができます。

不正な測定値は、次のような原因によって発生している可能性があります。

- 間違ったストリップを測定している（そのストリップが正しいパッチページ上にある場合を含む）。
- 間違ったページを測定している。
- 間違ったカラーを生成する印刷の不具合がページにある。
- 予想しないカラーの原因となる条件がプリンターや用紙にある。

メモ：場合によっては、正しいストリップを測定した場合でも、測定が無効であると検出されることがあります。ストリップを再度測定して、正しいストリップが測定されたことを確認します。エラーメッセージは測定プロセスに影響せず、測定器は測定を正常に完了します。

ページの測定後、測定値を確認する

操作を続行する前に、ページの測定値を確認できます。画面上に、選択されたストリップの拡大表示と、その横にストリップがあります。マウスポインターをパッチの上に移動すると、測定値が表示されます。

- 1 画面に表示されているパッチレイアウトで、確認したいストリップをクリックします。
- 2 拡大表示で、確認したいパッチの上にマウスポインターを移動します。

ストリップの再測定

携帯型の測定器でストリップを再測定できます。画面の拡大表示に、選択したストリップとその次のストリップが表示されます。

- 1 画面のパッチレイアウトで、再測定したいストリップをクリックします。
- 2 拡大表示で、測定したいストリップの番号または文字をクリックします。
- 3 確認メッセージが表示されたら、前と同じようにストリップを測定します。
- 4 **次へ**をクリックして次のページに移動するか、同じ手順を続行します。

カラー出力の再キャリブレーション

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションから、設定したスケジュールに従ってプリンターのカラー出力の再キャリブレーションを行うことができます。

次の点に留意してください。

- インターネット接続
- サポートされている測定器
- プリンターにスケジュールされている再キャリブレーション

- 1 Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションを開きます。
- 2 スケジュールアイコン (🕒) をクリックします。
- 3 **キャリブレート**をクリックします。

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションは、Fiery Calibrator および FieryMeasure を使用して再キャリブレーションのカラーパッチの印刷や測定をします。

- 4 **キャリブレーション名**を選択して、**次へ**をクリックします。
- 5 測定の種類を選択します。または、ファイルからパッチレイアウトをインポートする場合は、**インポート**を選択してファイルを選択します。

オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。

- 6 リストからパッチセットを選択します。
- 7 実行する再キャリブレーションに対応する**用紙ソース**を選択し、**次へ**をクリックします。
- 8 プリンターからパッチセットページを回収し、ウォームアップページをすべて破棄します。
- 9 画面上の指示に従って、パッチセットを測定します。
- 10 **次へ**をクリックします。
- 11 (オプション) 再キャリブレーション結果を確認するには、**テストページ**をクリックします。
- 12 **適用して閉じる**をクリックします。

Fiery ColorGuard の Fiery Verify

Fiery Verify は、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションの検証結果を表示します。

結果は、Fiery ColorGuard でスケジュールされている検証に関連する検証プリセットから算出されます。

検証プリセットは、スケジュールされているカラー検証に使用するカラーリファレンス、許容値セット、パッチセットを指定します。

Fiery Verify では、比較のために検証プリセットおよび許容値セットを編集できます。

メモ：Fiery Verify で編集した検証プリセットおよび許容値セットは、Fiery ColorGuard にアップロードされません。

Fiery Verify には Fiery ColorGuard ライセンスまたは Fiery Color Profiler Suite ライセンスが必要です。

Fiery Verify は次の携帯型測定器をサポートしています。

- EFI ES-2000
- Fiery ES-3000
- X-Rite i1Pro
- X-Rite i1Pro 2
- X-Rite i1Pro3
- X-Rite i1Pro 3 Plus
- Konica Minolta FD-5BT
- Konica Minolta MYIRO-1

サンプル測定値を保存する

検証処理の一部として作成された測定サンプルを .it8 ファイルとして保存できます。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを保存**をクリックします。
- 2 ファイルを保存する場所に移動します。
- 3 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

参照用としてサンプルを保存する

検証プリセットエディターでカラーリファレンスとして使用するために、測定サンプルを保存できます。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > 参照用としてサンプルを保存**をクリックします。
- 2 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

リファレンスファイルをロードする

リファレンスファイルを Fiery Verify にロードし、測定サンプルと比較できます。

以下の点に留意してください。

- Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。
- リファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。
- .icc ファイルを使用する場合は、IT8.7/4 のデフォルトパッチセットが使用されます。

1 Fiery Verify で、**比較 > リファレンスをロード**をクリックします

2 ファイルを選択して、**開く**をクリックします。

リファレンスファイルが Fiery Verify にロードされます。

サンプルファイルをロードする

サンプルファイルを Fiery Verify にロードし、リファレンスファイルと比較できます。

次の点に留意してください。

- Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。
- サンプルファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。
- .icc ファイルを使用する場合は、IT8.7/4 のデフォルトパッチセットが使用されます。

1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルをロード**をクリックします。

2 ファイルを選択して、**開く**をクリックします。

サンプルファイルが Fiery Verify にロードされます。

パッチ測定

新しく測定したカラーパッチと印刷したカラーパッチを比較できます。

サポートされている携帯型測定器がコンピューターに接続されていることを確認します。

1 印刷したカラーパッチを比較するには、次のいずれかの手順を実行します。

- **ファイル > 新しい比較**をクリックします。
- カラーリファレンスファイルまたはサンプルファイルから測定値をロードします。

2 **比較 > パッチ測定を開始**をクリックします。

3 画面のキャリブレーション手順に従って、測定器をキャリブレーションします。

4 **測定モード**をクリックし、任意の測定モードを選択します。

5 **キャリブプレート**をクリックします。

6 リファレンスまたは**サンプル**の行をクリックして、カラー測定値を設定します。

7 測定するカラーパッチの上に測定器を配置します。

8 測定器を使用してカラーパッチをスキャンします。

Fiery Verify は、測定したパッチ値を**リファレンス**列または**サンプル**列にリストされている値と自動的に比較し、結果を表示します。

9 パッチがすべて測定されたら、**測定を停止**をクリックします。

リファレンスとして使用するパッチページを測定する

Fiery Verify でカラー参照として使用するパッチページを測定できます。

印刷済みのパッチページが必要です。

メモ：Fiery Verify により測定値が.it8 ファイルとして保存されます。

1 Fiery Verify で、**比較 > リファレンスを測定**をクリックします。

Fiery Verify では、FieryMeasure を使用してサンプルカラーパッチを測定します。

2 **計器**リストから測定器を選択します。

オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。

3 測定の種類を選択します。または、ファイルからパッチレイアウトをインポートする場合は、**インポート**を選択してファイルを選択します。

4 測定器に適したページレイアウトを選択します。

5 **チャートサイズ**リストから、ワークフローに適しており、プリンターにロードされている用紙に対応するチャートサイズを選択します。

6 **測定**をクリックします。

7 画面の手順に従って、測定器のキャリブレーションを行います。

8 画面の指示に従って、パッチレイアウトページを測定します。

サンプルファイルを測定する

Fiery Verify のサンプルファイルとして使用するパッチページを測定できます。

印刷済みのパッチページが必要です。

メモ：Fiery Verify により測定値が.it8 ファイルとして保存されます。

1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを測定**をクリックします。

Fiery Verify は FieryMeasure を使用してサンプルカラーパッチを測定します。

2 **計器**リストから測定器を選択します。

オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。

- 3 測定の種類を選択します。または、ファイルからパッチレイアウトをインポートする場合は、**インポート**を選択してファイルを選択します。
- 4 測定器に適したページレイアウトを選択します。
- 5 **チャートサイズ**リストから、ワークフローに適しており、プリンターにロードされている用紙に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 **測定**をクリックします。
- 7 画面の手順に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、パッチレイアウトページを測定します。

レポートを保存する

検証比較の詳細を PDF ファイルとして保存できます。

- 1 Fiery Verify で次のいずれかを行います。
 - **ファイル > PDF にエクスポート > レポート**をクリックします。
 - **レポートアイコン**  をクリックします。
- 2 レポートを保存する場所に移動し、**保存**をクリックします。

検証ラベルを作成する

検証比較の詳細をラベルとして PDF ファイルに保存できます。

- 1 Fiery Verify で検証が完了したら、**ラベルアイコン**  をクリックします。
ラベルが PDF ファイルとして作成され、デフォルトの PDF ビューアで開かれます。
- 2 PDF ファイルを印刷または保存します。
メモ： G7 グレースケール許容値セットには、カラーリファレンスファイルは必要ありません。

最近の検証履歴を表示する

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションで、最近完了した検証の状況と結果を確認できます。
最近完了した検証の結果の詳細レポートを表示またはダウンロードできます。

- 1 Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションを開きます。
- 2  をクリックします。
- 3  をクリックして、検証結果を表示します。

4 検証結果ウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- **詳細** (🔍) をクリックすると、**Fiery Verify** の詳細な検証結果が表示されます。
- **レポート** (📄) をクリックして、検証結果を共有可能な PDF ファイルとしてダウンロードし、保存します。
- **ラベル** (🏷️) をクリックして、検証結果のラベルを PDF ファイルとして作成します。
- **再キャリブレート** (🔄) をクリックすると、再キャリブレーションを実行できます。

再検証

使用中のプリンターが再キャリブレートされた後で、カラーを再検証できます。

次の点に留意してください。

- インターネット接続
- サポートされている測定器
- 再キャリブレートされたプリンター

1 **Fiery ColorGuard** クライアントアプリケーションを開きます。

2 🏠 をクリックします。

3 🔄 をクリックして、検証結果を再検証します。

4 **計器** リストから測定器を選択します。

オプションで、**設定** をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。

5 **チャートサイズ** リストで、**ジョブのプロパティプリセット** (34 ページ) で指定された用紙に対応するチャートサイズを選択します。

6 (オプション) ウォームアップページ数を指定します。

ウォームアップページは、プリンターが一定期間使用されていない場合に有効です。

7 **印刷** をクリックします。

8 プリンターからページを回収し、ウォームアップページをすべて破棄します。

9 画面の指示に従って、パッチページを測定します。

10 **完了** をクリックします。

11 検証結果ウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- **詳細** (🔍) をクリックして、**Fiery Verify** で詳細な検証結果が表示します。
- **レポート** (📄) をクリックして、検証結果を共有可能な PDF ファイルとしてダウンロードし、保存します。
- **ラベル** (🏷️) をクリックして、検証結果のラベルを PDF ファイルとして作成します。
- **再キャリブレート** (🔄) をクリックして、再キャリブレーションを実行します。

失敗した検証

使用中のプリンターが検証に失敗した場合は、次のいずれかを実行します。

- プリンターの再キャリブレーション
- 正しい用紙がロードされていることの確認
- プリンターの製造元により指定されたインクまたはトナーの使用
- カラー参照と許容値設定に固有の出力プロファイルの作成
- 印刷会社の温度や湿度などの環境要因が、プリンターの製造元により指定された範囲内であることの確認
- 使用中のプリンターの保守点検

Mac コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする

使用する必要が無ければ、Mac コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールできます。

この手順は、Fiery Command WorkStation v6.8 以前を使用している場合にのみ適用されます。

- 1 アプリケーションフォルダーを開き、**Fiery Software Uninstaller** をダブルクリックします。
- 2 **Fiery ColorGuard** を選択します。
- 3 **アンインストール** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

Windows コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールする

使用する必要が無ければ、Windows コンピューターで Fiery ColorGuard デスクトップアプリケーションをアンインストールできます。

この手順は、Fiery Command WorkStation v6.8 以前を使用している場合にのみ適用されます。

- 1 Windows の**コントロールパネル**を開きます。
- 2 **プログラムのアンインストール**をクリックします。
- 3 **Fiery ColorGuard** を選択します。
- 4 **アンインストール**をクリックし、画面に表示される指示に従います。

Mac コンピューターで Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールする

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールするには、Fiery Command WorkStation をアンインストールする必要があります。この手順は、Fiery Command WorkStation v7.0 以降を使用している場合に適用されます。

- 1 アプリケーションフォルダーを開き、**Fiery Software Uninstaller** をダブルクリックします。
- 2 Fiery Command WorkStation パッケージを選択します。
- 3 **アンインストール** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

Windows コンピューターで Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールする

Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションをアンインストールするには、Fiery Command WorkStation をアンインストールする必要があります。この手順は、Fiery Command WorkStation v7.0 以降を使用している場合に適用されます。

- 1 デスクトップで、Windows ロゴ（**スタートボタン**）をクリックし、**Fiery > Fiery Software Manager** を選択します。
- 2 Fiery Command WorkStation パッケージの削除ボタンをクリックします。
- 3 画面の指示に従います。

EFI Go

プリンターの状況や送信されたジョブを確認したり、履歴をどこからでも表示したりできます。
モバイルアプリケーション EFI Go を使用すると、次のことが可能になります。

- 各プリンターの状況を表示します。
- プロダクションスケジュールの監視とトラッキング
- プロダクションブロックイベントの通知の設定

メモ：EFI Go は、Google Play または Apple App Store からダウンロードできます。

サポートされるモバイルデバイス

次のモバイルデバイスでサポートされている EFI Go モバイルアプリケーション：

- Android 5.0 以降
- iOS 9.0 以降

メモ：EFI Go は、iPhone、iPad、iPod touch で使用できます。

サポートプリントデバイス

EFI Go は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降を実行する Fiery サーバーに接続されたプリンターに対応しています。

デバイス情報の表示

Fiery IQ に接続されているデバイスに関する詳細情報を表示できます。

- 1 EFI Go アプリケーションにログオンします。
- 2 デバイスリストから、次のいずれかのリストをタップします。
 - すべてのデバイス
 - 印刷中
 - エラー

すべてのデバイスがデフォルトで表示されます。

- 3 希望のデバイスをタップします。

4 次のいずれかをタップすると、選択したデバイスのジョブの状況が表示されます。

- **待機** - 待機ジョブのリストを表示します。
- **処理キュー** - 処理済みジョブのリストを表示します。
- **印刷キュー** - 次に印刷するジョブのリストを表示します。
- **印刷済み** - 印刷済みジョブのリストを表示します。

デバイスログの表示

EFI Go でデバイスログの詳細を表示できます。

1 EFI Go モバイルアプリケーションで、**デバイスリスト**に移動します。

すべてのデバイスがデフォルトで表示されます。

2 希望のデバイスの名前をタップします。

3 **デバイスログ**をタップします。

4 特定の情報については、次のいずれかのリストをタップします。

- **アクティブ**
- **すべて**
- **エラー**
- **警告**
- **状況**

デバイスの状態の表示

EFI Go でデバイスの状態の詳細情報を表示できます。

1 EFI Go アプリケーションで、**デバイスリスト**から希望のデバイスをタップします。

すべてのデバイスがデフォルトで表示されます。

2 **デバイスの状態**をタップします。

3 デバイスの状態レポートの期間を指定します。

ジョブを検索する

EFI Go モバイルアプリケーションを使用して、Fiery IQ に接続しているプリンターでジョブを検索できます。

- 1 接続されているすべてのプリンターの特定ジョブを検索するには、検索フィールドにジョブ名を入力して、キーパッドの虫メガネのアイコン (Q) をタップします。

対応するプリンターで指定されたジョブの状況が表示されます。

- 2 デバイスリストに戻るには、左上角の矢印アイコン (←) をタップします。

検索を実行した後、検索フィールドをタップしてから検索フィールドの X をタップすると、現在の検索条件をクリアできます。これにより、違うワードで検索できます。

通知の表示

EFI Go を使用して、モバイルデバイスからプロダクションブロックイベントの通知を表示できます。

- 1 Fiery Notify クラウドアプリケーションで通知を設定します。

詳細は、[プロダクションブロックイベントに関する警告を有効にする](#) (75 ページ) を参照してください。

- 2 プロダクションブロックイベントが発生した場合は、次のいずれかの方法を選択して、モバイルデバイスで通知を表示します。

- EFI Go モバイルデバイスでプッシュ通知をタップします。
- EFI Go モバイルアプリケーションで、**通知**をタップします。

EFI Go で Fiery IQ からログオフ

EFI Go モバイルアプリケーションで、モバイルデバイスの Fiery IQ からログオフします。

- 1 EFI Go モバイルアプリケーションで、**設定**をタップします。
- 2 **ログアウト**をタップします。

Fiery Manage

印刷プロダクションが滞りなく進むよう、印刷環境を常に把握します。

Fiery Manage アプリケーションを使用すると、次のことが可能になります。

- 同じモデルのすべての Fiery 駆動デバイス間で設定を作成、保存、展開して、より一貫した品質と予測可能なプロダクションを実現します。
- マスター設定と一致しない Fiery システムを確認してレポートすることで、直ちに対策を講じ、Fiery サーバーを設定と一致する状態に戻すことができます。
- 印刷デバイスの問題や、印刷プロダクションをブロックしているデバイス設定の変更を特定し、プロダクションの減速を最小限に抑えることができます。
- Fiery サーバー設定情報にリモートでアクセスできます (Fiery 設定レポート)。

メモ：Fiery Manage では各プリンターにライセンスが必要です。Fiery Manage アプリケーションライセンスまたはライセンス更新を購入するには、Fiery サプライヤーにお問い合わせください。

メモ：Fiery Manage ライセンスをプリンターに割り当てるには、[プリンターの Fiery IQ アプリケーションライセンス](#) (18 ページ) を参照してください。

サポートプリントデバイス

Fiery Manage は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降が稼働している Fiery サーバーに接続されているプリンターをサポートしています。

同期パッケージの作成

同じモデルのプリンターそれぞれにインストールされているリソースを同期するためのパッケージを作成できます。

作成開始前に、同期パッケージ内容のソースとして使用するプリンターを把握します。

1 **Manage** アプリケーションで、 をクリックします。

2 **同期パッケージの作成** をクリックします。

メモ：新しい同期パッケージを作成するには、有効な Fiery Manage ライセンスが必要です。

3 **パッケージ名の指定** フィールドに同期パッケージの名称を入力します。

4 必要に応じて、**説明** フィールドに説明を入力します。

5 **次へ** をクリックします。

6 ソースプリンターを選択し、**次へ** をクリックします。

7 パッケージの作成をクリックします。

同期パッケージのデプロイ

リソース同期パッケージは、コレクションと個々のデバイスに展開できます。

- 1 **Manage** アプリケーションで、をクリックします。
- 2 **デプロイ**をクリックします。
- 3 デプロイ名を入力して、**次へ**をクリックします。
- 4 **コレクション**と**デバイス**で、同期パッケージを受け取るコレクションと各デバイスのチェックボックスをオンにします。
- 5 次のいずれかをクリックします。
 - **今すぐ展開** - リソース同期パッケージを今すぐ展開する場合。
 - **スケジュール** - リソース同期パッケージを後ほど展開する場合。
- 6 同期する日付と時刻を選択し、同期展開のお知らせを送信するタイミングを選択します。

コンプライアンスの確認

デバイスを標準に照らしてチェックし、パッチやプログラムがインストールされていることを確認できます。

- 1 **Manage** アプリケーションで、をクリックします。
- 2 コンプライアンスマスターとして機能させる **Fiery サーバー**を選択します。
コンプライアンスマスターは、コンプライアンスチェックの基準として機能します。
- 3 **コンプライアンスレポートのダウンロード**をクリックして、コンプライアンスレポートを.txt バージョンでダウンロードします。
.txt のコンプライアンスレポートには、Fiery サーバーに含まれている IP アドレスが含まれます。

Fiery サーバー設定をダウンロード

使用しているデバイスの、最新または最後に作成した Fiery サーバー設定をダウンロードできます。

Fiery サーバーを再起動すると、最新の Fiery サーバー設定が自動的にクラウドにアップロードされます。

- 1 **Manage** アプリケーションで、をクリックします。
- 2 サーバー設定をダウンロードするデバイスの横にある**アクション**列のをクリックします。

3 必要なことによって、次のいずれかの手順を実行します。

- 最新のサーバー設定をダウンロードするには、**最新の Fiery サーバー設定を要求**をクリックします。

メモ：最新のサーバー設定は、Fiery サーバーがオンラインのときのみダウンロードできます。

- 最後に作成したサーバー設定をダウンロードするには、**ダウンロード**をクリックします。

メモ：Fiery サーバーがオフラインのときは、最後に作成したサーバー設定のみをダウンロードできます。

Fiery サーバー設定ファイルはローカルのシステムにダウンロードされます。

Fiery Insight

正確なプロダクショントラッキングにより、プリンターの稼働率と利益を最大化します。

Fiery Insight アプリケーションを使用すると、次のことが可能になります。

- 経時的なトレンドをトラッキングできます。
- 1 つの Fiery Driven™ デバイスのプロダクションデータまたは複数のデバイスの集約データを表示します。
- 表示するデータを選択し、どのように表示するかを選択して、ダッシュボードをカスタマイズします。
- 使用状況をトラッキングし、生産性を比較します。
- 個々のプリンターまたはプリンター群を表に並べてプロダクション統計を比較します。

対応プリントデバイス

Fiery Insight は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降を実行する Fiery サーバーに接続されたプリンターに対応しています。

ジョブログのダウンロード

ジョブログの対象となるプリンターと日付を指定できます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 **ジョブログ**  アイコンをクリックします。
- 3 日付の範囲を選択し、**適用** をクリックします。
- 4 ジョブログに含めるコレクションと個々のデバイスのチェックボックスをオンにし、**適用** をクリックします。
- 5 ジョブログに含めるシフトの切り替えボタンをクリックし、**適用** をクリックします。
- 6 **列を設定** をクリックします。
ジョブログ列の詳細と説明については、[ジョブログ列](#) (69 ページ) を参照してください。
- 7 ジョブログに含める属性を選択し、**列に適用** をクリックします。
- 8 **ジョブログをダウンロード** をクリックして、ジョブログを .csv ファイルでダウンロードします。

メモ： 選択した属性列のみが .csv ファイルにエクスポートされます。

ジョブログ列の設定

ジョブログに表示される列はカスタマイズできます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 **ジョブログアイコン** () をクリックします。
- 3 **列を設定** をクリックします。
- 4 希望するジョブ情報を選択します。

ジョブログ列の詳細と説明については、[ジョブログ列](#) (69 ページ) を参照してください。

デフォルト復元 をクリックすると、既定のジョブ情報設定を表示できます。

- 5 **列を適用** をクリックします。

ジョブログ列

プリンターまたは印刷ジョブについて、ジョブログ列に表示する情報を選択できます。

ジョブログに表示するように選択できる情報は、プリンターによって異なります。一部のジョブログ列は、プリンターによっては値が表示されない場合があります。詳細については、使用しているプリンターの仕様を参照するか、Fiery のサプライヤーにお問い合わせください。

以下はジョブログで使用可能なカテゴリの一覧です。

列のカテゴリ	列名	列の説明
ジョブ情報	部数	要求した印刷用ジョブの総部数
	サイズ	印刷済みジョブのサイズ (バイト単位)
	ジョブタイトル	印刷ジョブ名
	名前	プリンター名
	ID	印刷ジョブの識別番号
	印刷状況	Fiery サーバーでの印刷ジョブの特定の具体的な印刷状態 (印刷済み、キャンセルなど)
	仮想プリンター	定義済みの設定で作成される印刷キューの名前
	ユーザー	現ユーザーの名前
	状況	印刷ジョブの状況 (印刷済み、完了など)
	RIP 秒数	印刷ジョブの処理に要した時間 ラスター画像処理 (RIP) では、ジョブをラスターファイルまたは画像に処理して印刷できるようにします。

列のカテゴリ	列名	列の説明
	インタープリター	印刷ジョブのファイル形式 インタープリターは、任意のファイルを PostScript (PS)、Adobe PCL、Adobe PDF など、印刷可能なジョブ形式に変換します。
用紙	用紙カタログ名	用紙カタログまたはメディアカタログの名前
	用紙使用量	単一および用紙種類の混合の合計用紙使用量の値
	用紙範囲	単一および用紙種類の混合の合計用紙範囲の値
	用紙名	ジョブに使用した用紙名 用紙カタログまたはメディアカタログエントリが選択されていない場合は、デフォルトの用紙名が表示されます。
	用紙サイズ	印刷に使用する用紙のサイズ
	用紙廃棄	印刷で使用されなかった用紙
	用紙重量	グラム単位での用紙重量
	用紙種類の混合	使用されるさまざまな用紙の種類
レイアウト	方向	印刷ジョブの方向（縦または横）
	両面	おもてと裏の印刷（両面印刷）
カラー	カラーモード	印刷ジョブに使用するカラーモード
	すべてのインク	印刷ジョブで使用されるインク名とインク消費量 ジョブログに追加すると、各インクの列が追加され、個々のインク消費量の値が表示されます。
インク	インク使用量	印刷ジョブで使用されたすべてのインクの合計消費量
	インクコスト	使用したインクの総コスト これは、Fiery IQ のデバイスドリルダウンページにユーザーが入力した情報に基づいて計算されます。
仕上げ	完了した仕上げ	ジョブ印刷後、プリンターに取り付けられた仕上げ装置を使用して実行される仕上げ機能
	仕上げの概要	仕上げ作業の概要
	折り	折り仕上げの種類（使用した場合）
	無線とじ	印刷ジョブの無線とじ仕上げに対応
	パンチ	印刷ジョブのパンチ仕上げに対応

列のカテゴリ	列名	列の説明
	ステープル	ステープル仕上げの種類（使用した場合）
記録日時	時刻	印刷が終了した日時
	最初のページの印刷日時	最初のページが印刷された時刻と日付
	ジョブ作成日時	印刷ジョブが作成された時刻と日付
	作成ジョブ作成日時	印刷ジョブが作成された時刻と日付
	印刷時間	印刷が開始した日時
タイムスタンプ	タイムスタンプ - 印刷終了	印刷が終了した日時
	タイムスタンプ - RIP 終了	ジョブが処理を終了した日時
	タイムスタンプ - スプール 終了	ジョブがスプールを終了した日時
	タイムスタンプ - 印刷中	印刷が開始した日時
	タイムスタンプ - RIP 中	ジョブが処理を開始した日時
	タイムスタンプ - スプール 中	ジョブがスプールを開始した日時
	タイムスタンプ - 印刷待機 中	印刷のためにジョブがキューに追加された日時
	タイムスタンプ - RIP 待機 中	処理のためにジョブがキューに追加された日時
デバイス	デバイス	プリンター名
	モデル	プリンターのモデル名
	サーバー名	Fiery サーバーの名前
	ソースアプリケーション	印刷ジョブが送信されたクライアントアプリケーションの名前
カウンター	印刷済み白黒ページの合計数	ジョブの印刷済み白黒ページ数
	印刷済みカラーページの合計数	ジョブの印刷済みカラーページ数
	印刷済みシートの合計	ジョブの印刷済みシート数
	印刷済みブランクページの合計数	ジョブの印刷済みブランクページ数
	白黒ページ	白黒ページ数

列のカテゴリ	列名	列の説明
	カラープリンターでの白黒ページ	カラープリンターで印刷された白黒ページ数
	印刷済みページ数	ジョブの印刷済みページ数
	印刷済みジョブの部数	ジョブの印刷済み部数
	白黒ページ数	白黒ページ数
	カラーページ数	カラーページ数
その他	印刷面積	ジョブの印刷済み領域
	使用面積	ジョブの印刷済み領域
	注釈 1	印刷ジョブの作成時に追加された最初のジョブ注釈メモ
	注釈 2	印刷ジョブの作成時に追加された 2 番目のジョブ注釈メモ
	注意事項	印刷ジョブ作成中にオペレーターに提示される注意事項

プリンター利用率の表示

使用中のプリンターの状態に関する詳細情報を表示できます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 **プリンターの使用状況** ウィジェットに移動し、**使用状況の詳細** をクリックします。
- 3 **使用状況の詳細** ウィンドウで、矢印アイコンをクリックしてプリンターの状態に関する追加情報を表示します。

プリンターを比較する

カスタマイズして、使用中のプリンターを並べて比較できます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 比較する日付範囲を選択し、**適用** をクリックします。
- 3 **カテゴリー** をクリックし、比較したいカテゴリーのチェックボックスをオンにします。
- 4 **適用** をクリックします。
- 5 **列の追加** をクリックし、比較するコレクションや個々のプリンターのチェックボックスをオンにします。
- 6 **適用** をクリックします。

プリンター名の下にある**シフト**切り替えボタンをクリックすると、各シフトのカテゴリーの比較を表示できます。

グラフの表示を変更する

トレンドページに表示されるグラフの種類を変更できます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 特定の間隔のグラフを表示するには、**表示間隔** をクリックし、希望する間隔を選択します。
- 3 次のいずれかのトレンドグラフに移動します。

- サブストレートの使用量
- インク使用量
- 印刷済みジョブ
- 印刷回数
- メディア使用状況

メモ：トレンドページに表示されるウィジェットは、使用中のプリンターの種類と設定によって異なります。使用中のプリンターによって、一部のウィジェットでは値が表示されない場合があります。

- 4 次のいずれかをクリックします。
 -  -トレンドグラフを棒グラフとして表示
 -  -トレンドグラフを折れ線グラフとして表示
- 5 トレンドグラフで使用可能な場合は、上矢印と下矢印をクリックして、追加の値を表示します。
必要に応じて各値の上にカーソルを置くと、グラフ上の情報がハイライトされます。各値を表示または非表示にするには、値をクリックします。

選択したプリンターの変更

選択したプリンターを変更して、**トレンド**または**ジョブログ**のページに詳細を表示できます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 **すべてのデバイス** をクリックし、次のリストから選択します。
 - **プリンターコレクション** タブで、表示するプリンターコレクションを選択します。
 - **プリンター** タブで、表示する個々のプリンターを選択します。プリンター名を検索することもできます。

メモ：任意のプリンターが選択されていない場合は、**デバイスを選択** と表示されます。

- 3 **適用** をクリックします。
データが利用できない場合は、ウィジェットに**利用可能なデータがありません**と表示されます。

シフト変更

トレンドまたはジョブログページに表示されているシフトを変更できます。

すべてのシフトボタンは、管理機能のシフトマネージャにシフトが追加されたときに表示されます。

- 1 **Insight** アプリケーションで、 をクリックします。
- 2 **すべてのシフト** をクリックします。
- 3 ダッシュボードからシフトを削除するには、シフト名の横にある切り替えボタンをクリックします。
- 4 **適用** をクリックします。

Fiery Notify

Fiery Notify によって、プロダクションブロックイベントの警告やプロダクションおよび設定レポートの通知をスケジュールに入れることができます。

Fiery Notify アプリケーションを使用すると、次のことが可能になります。

- プロダクションブロックイベントの警告やプロダクションレポートおよび設定レポート通知をオンにする
- ライセンスのあるプリンターまたはプリンターコレクションの設定レポートの作成
- 各通知タイプの状況表示
- 警告スケジュールの設定

サポートプリントデバイス

Fiery Notify は、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降を実行する Fiery サーバーに接続されたプリンターに対応しています。

プロダクションブロックイベントに関する警告を有効にする

登録されている Fiery サーバーのプロダクションがブロックされると、Fiery Notify が登録されている E メールアドレスに警告を送信します。

- 1 **Notify** アプリケーションで、**プロダクションブロックの警告**に移動します。
- 2 **設定**をクリックします。
もしくは、切り替えボタンをクリックします。
- 3 プロダクションブロックの警告を受け取る間隔を選択します。
- 4 **完了**をクリックします。
- 5 ウィンドウが表示されたら、**完了**をクリックします。

プロダクションレポートの通知を有効にする

Fiery Notify は、登録済み E メールアドレスに、登録した Fiery サーバーのプロダクション詳細を送信します。

- 1 **Notify** アプリケーションで、**プロダクションレポート**に移動します。
- 2 **設定**をクリックします。
もしくは、切り替えボタンをクリックします。

3 プロダクションレポートを受け取る間隔を選択します。

プロダクションレポートの受け取りに設定できる間隔は、毎日、毎週、または毎月です。

4 完了をクリックします。

5 ウィンドウが表示されたら、完了をクリックします。

次の点に注意してください。

- Fiery Notify は、現地時間の午前 3 時にプロダクションレポート通知を送信します。週次レポートは毎週日曜日に送信され、月次レポートは翌月初日に送信されます。
- プロダクションレポートには、アクティブなデバイスに関する情報のみが含まれます。

警告と通知の変更

Fiery Notify の警告や通知の間隔を変更できます。

1 Notify アプリケーションで、変更する警告または通知に移動します。

通知または警告がオンになっている場合、**状況列**に**アクティブ**と表示されます。

2 設定をクリックします。

3 間隔を変更します。

4 完了をクリックします。

5 ウィンドウが表示されたら、完了をクリックします。

設定レポート

設定レポートを使用すると、指定した期間の使用中のプリンターまたはプリンターコレクションの設定詳細を表示できます。

管理者またはサポートユーザーは、設定レポートを作成したり、Fiery Notify で定義されている頻度に基づいて定期的に通知を受け取ったりすることができます。

メモ：設定レポートを作成または表示するには、Fiery Manage ライセンスが必要です。

設定レポートの列

設定レポートの列には、ライセンスのある Fiery サーバーで定義または設定されているさまざまな属性が表示されます。

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を使用すると、リモートアクセスで Fiery サーバーを監視できます。設定レポートで SNMP 関連属性の値を取得するには、Fiery サーバーで SNMP を有効にする必要があります。プレス製造元にもよりますが、すべてのプリンターについて**プリンター SN**、**SNMPName** および **SNMPRepo** の各列の値が表示されるわけではありません。

設定レポートに表示するように選択できる情報は、プレスによって異なります。一部の列は、プレスによっては値が表示されない場合があります。詳細については、使用しているプレス仕様を参照するか、Fiery のサプライヤーにお問い合わせください。

表には、設定レポート列で利用できる属性の一覧が示されています。

メモ： Fiery サーバーを変更または更新した場合、アップデートしたデータが設定レポートに表示されるまで時間がかかることがあります。

デバイス情報列	説明
Fiery Name	管理者が定義した Fiery サーバーの名前
Fiery IP	Fiery サーバーのインターネットプロトコル (IP) アドレス
MAC Address	Fiery サーバーのメディアアクセス制御 (MAC) アドレス
最終アップデート	Fiery IQ が指定プリンターのデータを Fiery サーバーから最後に取得した時刻と日付
Fiery version	Fiery サーバーにインストールされたコードベースバージョン
Fiery subversion	Fiery サーバーにインストールされたコードベースのマイナーリリースバージョン
JDF version	Fiery JDF バージョン ジョブ定義形式 (JDF) を使用すると、印刷ジョブのクロスベンダーワークフロー実装が容易になります。
FCC バージョン	インストールされた Fiery Cloud Connector のバージョン
Disk size	Fiery サーバーの総ディスク容量 (メガバイト単位)
OS	Fiery サーバーにインストールされているオペレーティングシステム (OS)
Fiery SN	Fiery サーバーのシリアル番号
Printer SN	プリンターのシリアル番号
Auto System Updates	Fiery サーバーでの自動システムアップデートの可用性
Uptime	Fiery サーバーが最後にリブートされた時間
SysUTCTime	協定世界時 (UTC) で表示した Fiery サーバーのシステム時刻
Timezone	プリンター設置場所のタイムゾーン
DST	夏時間 (DST) のサポート。「1」は DST がサポートされていることを表し、「0」は指定されたタイムゾーンで DST がサポートされていないことを表します。
SNMPReadCommunity	SNMP 値を読み取りできるコミュニティ名
SNMPWriteCommunity	SNMP 値を書き込みできるコミュニティ名
SNMPVersion	SNMP のバージョン
SNMPSysUpTime	SNMP が最後に再初期化されてからの経過時間 時刻は 100 分の 1 秒単位で表示され、エポックベースの時刻形式で表示されます。

デバイス情報列	説明
SNMPName	SNMP 名
SNMPRepo	プリンターと通信する Fiery サーバーの内部 IP アドレス
Cal-Expiration	Fiery サーバーのキャリブレーション有効期間
FCC タイプ	埋め込み型または非埋め込み型の Fiery Cloud Connector 埋め込み型 Fiery Cloud Connector は Fiery サーバーにインストールされ、非埋め込み型 Fiery Cloud Connector はリモートマシン上の Fiery サーバーに搭載されます。
モデル	プリンターモデルの名前
FCC の状態	Fiery Cloud Connector のオフライン状態またはオンライン状態
Cal-Plain	普通紙キャリブレーションセットの最終キャリブレーション値
DHCP-auto	WebTools の DHCP 状態は、「はい」は DHCP がオンになっていることを表し、「いいえ」は DHCP がオフになっていることを表します。
DNS-auto	WebTools の DNS の状態は、「はい」は DNS がオンになっていることを表し、「いいえ」は DNS がオフになっていることを表します。
NTP-enabled	WebTools の NTP の状態は、「はい」は NTP がオンになっていることを表し、「いいえ」は NTP がオフになっていることを表します。 メモ： NTP では自動日時のオプションを設定できます。
NTP-usepool	WebTools に表示される SNTP タイムサーバー名

設定レポートの作成

Fiery Notify は、登録した Fiery サーバーの設定詳細を指定した E メールアドレスに送信します。

- 1 **Notify** アプリケーションで、**設定レポート**に移動します。
- 2 **設定レポートを作成**をクリックします。
- 3 **レポート名**フィールドに、レポートの名前を入力します。
- 4 設定レポートを受け取る間隔を選択します。

メモ：設定レポートの受け取りに設定できる間隔は、毎日、毎週、または毎月です。

5 次のいずれかまたは両方の操作を行って、構成レポートの受信方法を指定します。

- 設定レポートをメールで受信するには、**Eメール**チェックボックスをオンにします。設定レポートの受信者のメールアドレスを入力します。設定レポートのメール件名および本文を入力します。
- 設定レポートをSFTPで受信するには、**SFTP**チェックボックスをオンにします。設定レポートを受信するには、**SFTP**アカウントを選択してください。設定レポートの送信先となるSFTPアカウントを選択します。SFTPアカウントを追加していない場合は、**SFTPの新規追加**をクリックして追加できます。**SFTP 設定 管理コンソール**にリダイレクトされたら、SFTPアカウントを追加できます。

SFTPアカウントの追加については、[設定用のSFTPアカウントを追加する](#)（20 ページ）を参照してください。

6 **次へ**をクリックします。

7 **デバイスを選択**をクリックし、次のリストから選択します。

- **プリンターコレクション**タブで、プリンターコレクションを選択します。
- **プリンター**タブで、個々のプリンターを選択します。プリンター名を検索することもできます。

メモ：Fiery Manage ライセンスを使用してアクティベートされている プリンターまたはプリンターコレクションのみ、**デバイスを選択**リストから選択できます。

8 **項目の選択**フィールドで、設定レポートに含める設定タイプのチェックボックスを選択します。

メモ：設定レポート列の詳細や内容については、[設定レポートの列](#)（76 ページ）を参照してください。

9 **次へ**をクリックします。

10 **アップロード**をクリックして、設定レポートに含めるパッチファイルをアップロードします。

または、パッチ識別番号を入力し、**追加**をクリックします。

11 **保存**をクリックします。

設定レポートは最大 10 件作成できます。

Fiery Notify は、現地時間の午前 1 時に設定レポートの通知を送信します。週次レポートは毎週日曜日に送信され、月次レポートは翌月初日に送信されます。

設定レポートの編集

Fiery Notify の設定レポートを編集できます。

1 **Notify** アプリケーションで、**設定レポート**に移動します。

2 編集する設定レポートの横にある詳細（**⋮**）アイコンをクリックします。

3 **編集**を選択します。

4 必要に応じてレポートの詳細を変更し、**次へ**をクリックします。

5 必要に応じてデバイスと項目を変更し、**次へ**をクリックします。

6 必要に応じてパッチを変更し、**保存**をクリックします。

設定レポートの複製

Fiery Notify の設定レポートを複製できます。

- 1 **Notify** アプリケーションで、**設定レポート**に移動します。
- 2 複製する設定レポートの横にある詳細（**:**）アイコンをクリックします。
- 3 **複製**を選択します。
- 4 複製した設定レポートのレポート名を変更し、**次へ**をクリックします。
- 5 **次へ**をクリックした後に、**保存**をクリックします。
複製した設定レポートは、新しい名前で作成されます。

設定レポートの削除

Fiery Notify の設定レポートを削除できます。

- 1 **Notify** アプリケーションで、**設定レポート**に移動します。
- 2 削除する設定レポートの横にある詳細（**:**）アイコンをクリックします。
- 3 **削除**を選択します。
- 4 **OK** をクリックします。

警告の無効化

Fiery Notify からの警告または通知を無効にできます。

- 1 **Notify** アプリケーションで、無効にしたい通知に移動します。
- 2 アクティブになっている切り替えボタンをクリックして、通知または警告を無効にします。
通知または警告が無効になっている場合、**状況列**に**非アクティブ**と表示されます。

Fiery IQ のトラブルシューティング

次に記載されているトラブルシューティングの手順で問題が解決しない場合は、関連情報を収集した上でテクニカルサポートにお問い合わせください。

より詳細な情報やサポートが必要な場合、登録ユーザーは [Fiery Communities](#) で質問できます。

登録メールが届きませんでした

6桁のコードが記載された確認メールが届かない場合は、メールアプリケーションの設定で別のフォルダーに振り分けられている場合があります。

- 確認メールを見つけるには、次のいずれかまたは両方の操作を行います。

- 他のメールフォルダを確認します。

Eメールが誤ってスパムまたは迷惑メールとして分類されている可能性があります。ご自分で作成したフォルダーも確認してください。

- Eメールのフィルタールールを確認します。

メールアプリケーションで、フィルタールールの設定を開きます。noreply@fiery.com のルールが含まれている場合は、ルールを削除または編集して、確認メールが受信トレイに届くようにします。また、フィルタールールにより noreply@fiery.com からの Eメールが振り分けられるフォルダーも確認してください。